香川県埋蔵文化財調査年報

平成6年度

1995.3

香川県教育委員会

例　　言

1．本書は、平成６年度の県内における埋蔵文化財保護行政及び発掘調査の概要集である。

2．発掘調査結果の概要を掲載した遺跡の位置は各遺跡毎に示し、文化財保護法に関する届出等については一覧表（Ｐ４～19）に示した。

3．本文頁は通し番号としたが、挿図・図版番号は遺跡ごとに付した。

4．遺跡の配列は、県教委主体の調査、市町教委等主体の調査の順とした。後者については原則として西から東の地域への順とした。

5．香川県教育委員会事務局文化行政課職員が発掘調査指導を行った遺跡は、各市町の了解のもとに収録した。

6．各遺跡の位置については、国土地理院発行の25,000分の１及び50,000分の１の地形図を使用した。

7．各遺跡の編集は執筆者が行い、全体編集を県教育委員会文化行政課が行った。

目　　次

1．平成６年度埋蔵文化財保護行政の動向……1

特別名勝栗林公園……20
高松城跡……21
史跡屋島……22
砂入遺跡……23
母神山古墳群……24
尾端・おう塚古墳……25
友信士居跡遺跡……26
宮が尾古墳……27
九頭神遺跡……28
平池東・西遺跡……29
史跡　丸亀城跡……30
樫林南遺跡……31
清源寺古墳……32
天神七ツ塚７号墳ほか……33
大堀城跡……35
木下遺跡……36
讃岐国府跡……37
沙弥ナカンダ浜遺跡……38
笠山遺跡……39
明神原遺跡……40
原遺跡……41
定連池東丘１号墳……42
行末西遺跡……43
西村遺跡……44
特別史跡　讃岐国分寺跡……45
弘福寺領讃岐国山田郡田図南
　　地区比定地……46
宮西・一角遺跡……47
日暮・松林遺跡……48
空港跡地遺跡（亀の町地区Ⅰ・Ⅱ）……49
境目・下西原遺跡……50
片山池瓦窯跡……51
汲仏１号塚・瓦礫１号塚……52
白山３遺跡……53
天神山古墳……54
山大寺池西丘上２・３号墳……55
剣山古墳・天満遺跡……56
西士居遺跡群……57
田中南原遺跡……58
尾崎西遺跡……59
富田茶臼山古墳陪塚群……60
津田町鶴羽発見の備蓄銭……68

2．㈶香川県埋蔵文化財調査センター発掘調査概況

県道事業に伴う調査状況……73
県事業に伴う調査状況……75

1．平成６年度埋蔵文化財保護行政の動向

1　はじめに

平成６年度は，新たに埋蔵文化財専門職員の配置がなされた市町がみられるなど県下の埋蔵文化財の保護体制の整備に，徐々にではあるが着実な進展の認められた年であったが，依然人的な課題は大きい。こうした中，本年度から文化庁は，埋蔵文化財発掘調査件数の増加などの埋蔵文化財保護行政が抱える諸課題に適切に対応するため,「埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究」を開始するなど新たな動きが認められる。景気後退期にあっても，緊急経済対策などにより，公共事業量は，減少の方向ではない。また，規制緩和など埋蔵文化財保護行政を取り巻く環境は変化してきており，開発事業との調整の円滑化，発掘調査の効率化・迅速化への要望などに応える必要性からも，適正な保護体制の整備は不可欠な課題であろう。

2　保護体制

平成６年度末の香川県下の埋蔵文化財保護体制は，県教委関係が文化行政課埋蔵文化財担当職員３名・財団法人香川県埋蔵文化財調査センターの発掘調査担当職員35名の合計38名，市町の埋蔵文化財専門職員については，県下の５市32町中の５市６町に配置されており，合計12名である。昨年度と比較すると，観音寺市が加わり，市段階では，県下の全市に少なくとも１名の文化財専門職員が配置され，また東讃の木田郡三木町・大川郡大川町で新たに専門職員が配置された。市町の埋蔵文化財保護体制の整備が進展をみたものの，全市町数に対する文化財専門職員配置率は27％と，まだ約７割の町には，専門職員が配置されていず，埋蔵文化財保護と開発事業との調整・発掘調査の実施等，まだまだ課題は多い。

県内の埋蔵文化財専門職員配置状況

香川県	38名	大川町	１名
高松市	３名	三木町	１名
丸亀市	１名	国分寺町	１名
坂出市	１名	綾歌町	１名
善通寺市	１名	多度津町	１名
観音寺市	１名	豊中町	１名

3　開発事業の動向と発掘調査の状況

国・県関係の開発事業については，瀬戸大橋，四国横断自動車道，新空港建設といった基幹交通網の建設・整備に伴い，交通網の整備は県道等のアクセス道路の整備が増加してきている。こ

の傾向は，今後の高松東道路（三木津田間），四国横断自動車道（津田以東区間）の整備の進展によっても継続すると考えられる。また，既存の県道等の道路改良事業自体も，従来の道路拡幅型からバイパス型へと変化してきており，面的な広がりを持つものが増え，必然的に埋蔵文化財とリンクする工事も増加してきている。

また，交通網の整備の進展に伴い，空港跡地の再開発，高松港頭地区区画整理事業，新工業団地の建設といった道路以外の基盤整備関係の開発が計画・実施されるなど，当然のことではあるが基幹道路建設は周辺の開発と密接な関係を持つ。また，国民文化祭・高校総体等の全国的な事業の誘致に伴う県民ホールの充実，陸上競技場の建設といった施設建設，新設高校・歴史博物館等の教育文化施設の建設等が計画・実施されつつある。

こうした多岐にわたる開発の増加により，埋蔵文化財保護業務は，内容の複雑化・事務量の増加が生じている。発掘調査の実施は当然のことであるが，埋蔵文化財保護と開発事業との調整業務の重要性は以前にも増して高まってきている。

市町主体の開発や民間開発についても，基幹交通網の整備は影響を及ぼしており，埋蔵文化財保護において市町が担う役割も増加してきている。こうした中で約７割の町に文化財専門職員が配置されていない点は，大きな課題である。

4　史跡の保存と活用

今年度の新たな国・県の史跡・重要文化財の指定はなかった。また，国庫補助を受けて実施する史跡整備事業は，特別史跡讃岐国分寺跡・史跡丸亀城跡・史跡有岡古墳群（宮が尾古墳）で実施された。また史跡の土地公有化は，平成５年７月史跡指定された大川町史跡富田茶臼山古墳で実施されている。

特別史跡讃岐国分寺跡では，国分寺の全貌を分かりやすくするために設置された石造伽藍模型の充実が行われた。事業費は，7,185万円で，内補助対象額は4,790万円である。また史跡丸亀城跡では，引き続き石垣の修復が行われた。事業費は，3,002万円で，内補助対象額は2,000万円である。また史跡有岡古墳群（宮が尾古墳）では，昨年度の公有化に引き続き，石室内の漏水のため線刻画保存のため，埋没していた墳丘・周溝の被覆土の除去等がなされた。事業費は，1,013万円，内補助対象額は666万円である。

富田茶臼山古墳の公有化は，３年計画で進められる予定であり，初年度に当たる今年度は，事業費は，3,230万円で，内補助対象額は2,907万円である。

5　発掘調査の成果

各時代毎に，特徴的な調査を紹介する。

今年度は，旧石器時代・縄文時代ともに，遺物の出土はいくつかの遺跡において認められるも

のの，新しい知見を得るところまではいたっていない。

弥生時代においては，木田郡三木町鹿伏・中所遺跡の調査がある。県立高校の新設に伴う調査で，弥生時代中期と古墳時代初頭の時期を中心とするまとまりのよい集落跡であり，小児用の土器棺墓も竪穴住居群に隣接して検出している。当該期の三木町域の中心的な集落跡であろう。

古墳の調査では，県営ほ場整備に伴う試掘調査で確認された，大川郡大川町に所在する四国最大の前方後円墳である史跡富田茶臼山古墳の陪塚がまずあげられよう。陪塚の確認は四国では初例であり，検出された3基の陪塚の配置の規則性から計画的に築造されたものと考えられ，畿内政権との結びつきや地域政権の構造をうかがい知る重要なものである。

古代から中世にかけては，高松市片山池瓦窯跡の調査がある。本窯跡は隣接する坂田廃寺に瓦を供給しており，今回の調査では丸瓦・平瓦とともに鴟尾片も出土している。瓦は白鳳期の所産であり，ロストル等の残存状況もよく，注目される。

また，地道な調査ではあるが，古代山城である坂出市の史跡城山の明神原遺跡の測量調査も今後の城山の全貌の解明に向けて重要なものであろう。城山が城門・水門等を有する明確かつ大規模な城であるのに対して，高松市の屋島については日本書紀に記載があり著明である割にその実体については不明な点が多い。今後の調査が期待される。

近世の発掘調査では，丸亀市の史跡丸亀城の石垣修復に伴う調査がある。石垣の解体修復を実施しているこの整備では，史跡石垣の内部の状況を確認することができる。今年度の調査では，帯曲輪の内部から，元和～寛永年間と推定される石垣とともに築城時のものと考えられる整地面が検出されている。生駒期から京極期までの城の変遷を摑みうる調査結果は貴重である。

平成６年度　　文化財保護法に関する届出等

Ⅰ　遺跡発見の届出・通知（57条の５・６）

番号	位　　置	原　　因	発　　見　　者
1	善通寺市仙遊町１－３－１	その他の建物	四国農業試験場長 吉田　堯
2	綾歌郡飯山町川原字北土居49－１番地	道路	ダイキ株式会社代表取締役 大亀考裕
3	三豊郡三野町大字吉津字宗吉	分布調査	三野町教育委員会教育長 藤田明美
4	仲多度郡仲南町大字塩入95	道路	香川県知事　平井城一
5	仲多度郡満濃町大字長尾字樫林2626	農業関連	満濃町土地改良区理事長 森　照市
6	木田郡三木町大字上高岡山大寺	その他の開発	三木町教育委員会教育長 出井健一
7	木田郡三木町大字池戸2393番地	その他の開発	香川大学学長　岡市友利
8	大川郡志度町志度2648番地	その他の開発	池添輝夫

Ⅱ　埋蔵文化財発掘の届出・通知（57条の２・３）

番号	遺跡の名称	遺 跡 の 所 在 地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号・日付
1	讃岐国府跡	坂出市府中町5129番地	官　衙　跡	奈良～中世	６教文発第15－１号
2	本村・横内遺跡	大川郡寒川町石田東	集　落　跡	奈良・平安	６教文発第15－２号
3	空港跡地遺跡	高松市林町	集　落　跡	弥生～近世	６教文発第15－２号
4	平池南遺跡	丸亀市金倉町833－１，原田町1910他	集　落　跡	縄文・弥生	６教文発第15－３号
5	讃岐国府跡	坂出市府中町5136	官　衛　跡	奈良・平安・中世	６教文発第15－４号
6	空港跡地遺跡	高松市林町字亀ノ町2222番２	集　落　跡	弥生	６教文発第15－５号
7	小山，南谷遺跡	高松市新田町・高松町	集　落　跡	縄文・弥生・平安	６教文発第15－６号
8	十川東，平田遺跡	高松市十川東町	集　落　跡	弥生・古墳	６教文発第15－７号
9	尾崎西遺跡	大川郡長尾町東1202，1191	集落跡・古　墳	古墳・中世	６教文発第15－８号
10	吉野大堀王屋敷跡	仲多度郡満濃町大字吉野字八幡	城　館　跡	中世	６教文発第15－９号
11	金倉平地東遺跡	丸亀市金倉町909～912	溝　　跡	弥生	６教文発第15－10号
12	日暮・松林遺跡	高松市多肥下町1300番地ほか	集　落　跡	弥生・中世	６教文発第15－11号
13	五輪塔３号	大川郡白鳥町白鳥2805－２	その他の墓	近世	６教文発第15－12号
14	城山城跡	坂出市西庄町1519－182ほか	都　城　跡	奈良～中世	６教文発第15－13号
15	滝宮滝遺跡	綾歌郡綾南町大字滝宮字滝1351－24～27	集　落　跡	中世・近世	６教文発第15－14号
16	幸田池東遺跡	大川郡志度町大字志度字長行池5041－１他	その他の墓	弥生	６教文発第15－15号
17	千町遺跡	大川郡大川町富田中2097他	集　落　跡	平安・中世	６教文発第15－16号

発見年月日	遺 跡 の 種 類	遺跡の時代	指 導 内 容	香川県文書番号・日付
平6．4．8	集落跡	弥生・古墳	発掘調査	6教文発第16－1号 平成6．4．14
平6．5．12	集落跡	中世	慎重工事	6教文発第16－3号 平成6．5．31
平6．5．13	生産遺跡	奈良	現状保存	6教文発第16－2号 平成6．5．31
平6．6．1	城館跡	中世・近世	慎重工事	6教文発第16－5号 平成6．7．25
平6．6．9	集落跡・その他の墓	弥生・古墳	発掘調査	6教文発第16－4号 平成6．6．9
平6．6．27	古墳	弥生	発掘調査	6教文発第16－6号 平成6．7．25
平6．7．11	その他の遺跡	弥生	慎重工事	6教文発第16－8号 平成6．8．9
平6．7．18	集落跡	中世	現状保存	6教文発第16－7号 平成6．8．18

事 業 目 的	事 業 主 体	事業面積 (m²)	事 業 期 間	指導内容
住宅	個人	142.39	6．2．24～6．4．1	発掘調査
道路	香川県	1,500	6．4．1～6．4．25	発掘調査
その他の建物	香川県土地開発公社	3,500	6．4．1～6．4．1	発掘調査
その他の建物	香川県	16,000	6．4．1～6．4．1	発掘調査
住宅	個人	55.52	6．4．22～6．5．6	発掘調査
その他の建物	日本電信電話株式会社 四国支社	200.00	4．6．18～6．5．25	発掘調査
道路	香川県	12,000	6．4．1～6．4．1	発掘調査
道路	香川県	8,000	6．4．1～6．6．7	発掘調査
宅地造成	個人	1,721	6．6．1～6．6．9	発掘調査
宅地造成	個人	－	6．5．9～6．5．19	工事立会
その他の開発	丸亀市	2,000	6．6．29～6．7．5	発掘調査
道路	高松市	1,990	6．7．7～6．7．18	発掘調査
農業関連	大川土地改良事務所	2	6．6．23～6．7．11	工事立会
その他の建物	高松カントリー倶楽部	25,472	6．7．20～6．8．2	工事立会
その他の建物	四国郵便局	500	6．7．7～6．8．5	工事立会
宅地造成	四鉄不動産株式会社	1,050	6．7．20～6．8．3	発掘調査
その他の建物	大川町	524	6．7．13～6．7．19	発掘調査

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号・日付
18	山大寺池西丘2号墳	木田郡三木町大字上高岡山大寺	古墳	古墳	6教文発第15－17号
19	西茶臼山古墳	木田郡大川町富田中石仏	集落跡	古墳・奈良・中世	6教文発第15－18号
20	千町遺跡	大川郡大川町富田中中央通り	集落跡	古墳・奈良・中世	6教文発第15－19号
21	八丁地遺跡	大川郡志度町大字志度	集落跡	縄文・弥生・奈良	6教文発第15－20号
22	彼ノ宗遺跡	善通寺市仙遊町2－680－226	集落跡	弥生・中世	6教文発第15－21号
23	鹿伏・中所遺跡	木田郡三木町大字平木他	集落跡	弥生・古墳	6教文発第15－22号
24	空港跡地遺跡	高松市林町351番地4他	散布地・集落跡	弥生	6教文発第15－23号
25	八丁地遺跡	大川郡志度町大字志度八丁地	集落跡	弥生・古墳	6教文発第15－24号
26	星が城跡	小豆郡内海町安田・片城	城館跡	中世	6教文発第15－25号
27	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町1－3－1	集落跡	弥生・古墳	6教文発第15－26号
28	天神山古墳	木田郡三木町大字鹿伏字山田471番地1地先	古墳	古墳	6教文発第15－27号
29	千町遺跡	大川郡大川町富田中2147－3	集落跡	弥生～奈良	6教文発第15－28号
30	ナカンダ浜遺跡	坂出市沙弥島字北通186番1	集落跡	縄文～中世	6教文発第15－29号
31	木太本村遺跡	高松市木太町1478－3他	散布地	縄文～古墳	6教文発第15－30号
32	木下遺跡・木下塚	仲多度郡琴南町造田字木下	集落跡・その他の墓	中世	6教文発第15－31号
33	福万遺跡	木田郡三木町大字氷上	集落跡	弥生	6教文発第15－32号
34	宮西遺跡・一角遺跡	高松市林町6－95他	散布地	奈良・平安	6教文発第15－33号
35	原遺跡	綾歌郡綾南町栗熊東3442－1他	その他の遺跡	その他	6教文発第15－34号
36	三谷石船古墳	高松市三谷町2707－1	古墳	古墳	6教文発第15－35号
37	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶2464番地1	集落跡	中世	6教文発第15－36号
38	讃岐国府跡	坂出市府中町1520－1	官衙跡	奈良～中世	6教文発第15－37号
39	原中村遺跡	木田郡牟礼町大字原字中村	集落跡	弥生	6教文発第15－38号
40	境目・下西原遺跡	高松市松縄町141・木太町978	散布・集落跡	弥生・古墳	6教文発第15－39号
41	北原3号墳	善通寺市善通寺町字北原4111－2	古墳	古墳	6教文発第15－40号
42	石田高校校庭内遺跡	大川郡寒川町石田東甲1340－1他	集落跡	弥生～中世	6教文発第15－41号
43	讃岐国府跡	坂出市府中町字本村上所	官衙跡	古墳～中世	6教文発第15－42号
44	白山3遺跡	木田郡三木町大字下高岡字白山980番地1ほか	集落跡	弥生	6教文発第50号
45	母神山古墳群,黒島林支群	観音寺市池之尻町1101－4	古墳	古墳	6教文発第145号
46	多肥松林遺跡	高松市多肥上町・多肥下町	集落跡	弥生	―――

事業目的	事業主体	事業面積(m²)	事業期間	指導内容
その他の開発	三木町教育委員会	300	6．7．15～6．7．25	発掘調査
農業関連	大川土地改良事務所	31,860	6．8．3～6．8．9	発掘調査
農業関連	大川土地改良事務所	64,470	6．8．3～6．8．9	発掘調査
道路	香川県	4,500	6．4．1～6．8．31	発掘調査
河川	香川県	64	6．8．19～6．8．31	発掘調査
学校	香川県	14,400	6．4．1～6．8．31	発掘調査
その他建物	高松南部農協	500	6．8．8～6．8．9	発掘調査
水道	志度町	21	6．10．3～6．10．4	工事立会
その他の開発	香川県	－	6．10．7～6．10．24	工事立会
その他の開発	香川県	124,945.02	6．10．24～6．11．4	発掘調査
土砂採取	三木町	9,247.73	6．11．1～6．11．4	発掘調査
その他の建物	香川県	90	6．10．21～6．10．27	発掘調査
宅地造成	個人	202	6．10．31～6．11．16	発掘調査
河川	香川県	1,500	6．10．31～6．11．7	発掘調査
農業関連	琴南町	30,000	6．11．15～6．11．18	工事立会
道路	香川県	1,500	6．10．11～6．12．2	発掘調査
道路	高松市	400	6．11．21～6．11．28	発掘調査
農業関連	綾歌町	504	6．10．4～6．11．28	発掘調査
その他の建物	高松市三谷地区　地域おこし事業推進委員会	1	6．11．29～6．12．2	工事立会
住宅・その他の建物	個人	1,283	6．12．6～6．12．14	発掘調査
住宅	個人	261.15	6．11．9～6．12．22	工事立会
道路	香川県	600	6．12．16～7．1．6	発掘調査
道路	高松市	3,500	7．1．5～7．1．5	発掘調査
道路	香川県	900	7．12．15～8．1．4	発掘調査
その他の建物	ジャスコ株式会社	40,954	7．2．17～7．2．17	発掘調査
住宅	個人	152.06	7．1．17～7．1．17	発掘調査
その他の建物	三木町	54,000	6．4．7～6．4．9	発掘調査
その他の建物	簡易保険福祉事業団	19,256.81	6．5．30～6．6．1	工事立会
学校	香川県教育委員会	3,590	6．4．1～	発掘調査

III　埋蔵文化財発掘調査通知（98条の２）

番号	遺跡				調査	
	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
1	小山・南谷遺跡	高松市新田町・高松町	集落跡	縄文 弥生 平安	県道高松志度線建設	香川県
2	本村・横内遺跡	大川郡寒川町石田東本村・横内	集落跡	奈良 平安	県道石田東・志度線建設	香川県
3	高松城跡	高松市玉藻町	城館跡	中世 ～近世	歴史博物館建設	香川県
4	多肥松林遺跡	高松市多肥下町	集落跡	弥生	高校新設事業	香川県
5	空港跡地遺跡	高松市林町	集落跡	弥生 ～近世	空港跡地開発整備事業	(財)香川県土地開発公社
6	平池南遺跡	丸亀市金倉町	集落跡	縄文 弥生	陸上競技場建設	香川県
7	引田城跡	大川郡引田町引田字川向８林班	城館跡	中世 ～近世	町史編纂に伴う測量調査	引田町
8	城山３遺跡	木田郡三木町下高岡字城山980－１	集落跡	弥生	健康福祉施設予定地造成	三木町
9	竹元遺跡	高松市東植田町2048－１	集落跡	縄文 弥生	道路塩江屋島西線道路局部改修工事	香川県
10	玉藻地区	高松市玉藻町102－１	その他の遺跡	近世	県民ホール小ホール建設事業	香川県
11	栗林公園	高松市栗林町1564－２	庭園	近世	栗林公園観光事務所造園課庁舎改築工事	香川県
12	讃岐国府跡	坂出市府中町5129	官衙跡	奈良 平安	個人専用住宅（納屋）	個人
13	讃岐国分寺跡	綾歌郡国分寺町国分2031番地１	社寺跡	奈良	現状変更	個人
14	川向地区	高松市檀紙町	不明	不明	県道三木国分寺線改良	香川県
15	中村地区	木田郡牟礼町中村	不明	不明	県道高松志度線改良	香川県
16	空港跡地遺跡	高松市林町2222番地２	集落跡	弥生	電話交換施設建設	日本電信電話㈱
17	北原地区	善通寺市善通寺町4115	不明	不明	県道観音寺善通寺線緊急地方道路整備事業	香川県
18	讃岐国府跡	坂出市府中町5136	官衙跡	奈良 平安	個人専用住宅	個人
19	樫林南遺跡	仲多度郡満濃町大字長尾字樫村2626	集落跡	弥生 古墳	団体営天神地区農業基盤整備事業	満濃町土地改良区

調				査		
対　処	調査主体	調査面積	調査期間	調査担当者	費用負担	調査後の措置
事前調査	県　教　委	(m²) 12,000	6．4．1 ～ 7．3．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香　川　県	工事実施
事前調査	県　教　委	1,500	6．4．1 ～ 6．6．30	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香　川　県	工事実施
事前調査	県　教　委	2,850	6．4．1 ～ 7．3．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香　川　県	工事実施
事前調査	県　教　委	3,590	6．4．1 ～ 6．8．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香　川　県	工事実施
事前調査	県　教　委	3,500	6．4．1 ～ 6．8．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香　川　県	工事実施
事前調査	県　教　委	16,000	6．4．1 ～ 7．3．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香　川　県	工事実施
測量調査	引田町教委	10,000	6．4．11 ～ 7．7．31	香川大学 丹羽　佑一	引　田　町	現状保存
事前調査	三木町教委	8,000	6．4．11 ～ 6．7．19	三木町教育委員会 石井　健一	三　木　町	工事実施
事前調査	県　教　委	100	6．4．13 ～ 6．4．13	文化行政課 國木　健司	香　川　県	工事実施
試堀調査	県　教　委	50	6．4．14 ～ 6．4．15	文化行政課 森下　英治	県　教　委	包蔵地確認 事前調査
試堀調査	県　教　委	40	6．4．21 ～ 6．4．22	文化行政課 森下　英治	県　教　委	包蔵地確認されず
確認調査	坂出市教委	100	6．4．21 ～ 6．5．31	坂出市教育委員会 今井　和彦	国・県・市	工事実施
試堀調査	国分寺町教委	100	6．5．10 ～ 6．5．31	国分寺町教育委員会 松尾　忠幸	町　教　委	工事実施
試堀調査	県　教　委	210	6．5．11 ～ 6．5．13	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認 事前調査
試堀調査	県　教　委	80	6．5．18 ～ 6．5．20	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認 事前調査
事前調査	高松市教委	200	6．5．19 ～ 6．6．30	高松市教育委員会 山本　英之	原　因　者	工事実施
試堀調査	県　教　委	60	6．5．27 ～ 6．5．27	文化行政課 森下　英治	国　・　県	包蔵地確認 事前調査
確認調査	坂出市教委	50	6．6． ～ 6．6下旬	坂出市教育委員会 今井　和彦	国・県・市	工事実施
事前調査	満濃町教委	120	6．6．1 ～ 6．6．2	満濃町教育委員会 天米　賢吾他 県教委指導	町　教　委	工事実施

番号	遺跡				調査	
	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
20	尾崎西遺跡	大川郡長尾町東1202	集落跡	古墳 中世	民間住宅造成	個人
21	空港跡地遺跡	高松市林町字亀ノ町 351番地4	集落跡	弥生	高松南部農協林支所建設	高松南部農業協同組合
22	幸田地区	大川郡志度町志度 字幸田	不明	不明	高松東道路建設	建設省
23	片山池瓦窯跡	高松市西春日町 1626	生産遺跡	奈良 平安	遺跡範囲確認	市教委
24	雨滝城跡	大川郡大川町富田 森清539－2	城館跡	中世	葬祭場建設	大川中部開発組合
25	馬篠観音院	大川郡大内町馬篠 227他	社寺跡	中世	団体営ほ場整備事業	土地改良区
26	川東廃寺跡	大川郡大川町富田 中川東	社寺跡	中世	団体営ほ場整備事業	土地改良区
27	金倉平地東地区	丸亀市金倉町 906～913	不明	不明	調整池建設	丸亀市
28	鹿伏・中所遺跡	大川郡木田郡三木町 鹿伏中所外	集落跡	弥生 古墳	高校新設事業	香川県
29	落合窯跡	綾歌郡陵南町大字 千疋73番地	生産遺跡	平安	広域畜産環境整備特別対策事業	香川県
30	日暮・松林遺跡	高松市多肥下町 1300番	集落跡	弥生 中世	都市計画道路建設	高松市
31	天神山古墳	木田郡三木町大字 鹿伏字山田	古墳	古墳	土砂採取	個人
32	千町遺跡	大川郡大川町富田中 2097－7，他	集落跡	弥生 奈良 中世	大川町農村改善センター建設	大川町
33	千町遺跡	大川郡大川町富田中 2097他	集落跡	平安 中世	大川町農村改善センター建設	大川町
34	藤村地区	大川郡志度町大字 志度藤村	不明	不明	高松東道路建設	建設省
35	山大寺池西丘上3号墳	木田郡三木町大字 上高岡山大寺	古墳	古墳	防災工事	三木町
36	山大寺池西丘上2号墳	木田郡三木町大字 上高岡山大寺	古墳	古墳	防災工事	三木町
37	本村地区	高松市木太町本村	不明	不明	宮川改修工事	香川県
38	川津地区	坂出市川津町	不明	不明	国道438号線道路改良工事	香川県

調				査		
対　処	調査主体	調査面積	調査期間	調査担当者	費用負担	調査後の措置
事前調査	長尾町教委	(m²) 1,712	6．6．6 ～ 6．7．15	長尾町教育委員会 吹田　健児 県教委指導	個　　人	工事実施
試掘調査	高松市教委	4,000	6．6．10 ～ 6．6．30	高松市教育委員会 山本　英之	原　因　者	包蔵地確認 事前調査
試掘調査	県　教　委	400	6．6．20 ～ 6．6．24	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認 事前調査
確認調査	高松市教委	6	6．6．20 ～ 6．6．30	高松市教育委員会 山本　英之	市　教　委	現状保存
試掘調査	大川町教委	5,000	6．6．27 ～ 6．6．27	大川町教育委員会 萬木　一郎	町　教　委	包蔵地確認されず
試掘調査	大内町教委	40	6．6．27 ～ 6．6．27	大内町教育委員会 笹島　邦昭 県教委指導	町　教　委	包蔵地確認 協議中
試掘調査	大川町教委	44,000	6．6．29 ～ 6．7．1	大川町教育委員会 萬木　一郎	町　教　委	包蔵地確認 現状保存
確認調査	丸亀市教委	2,500	6．7．1 ～ 6．7．11	丸亀市教育委員会 東　　信男	国・県・市	包蔵地確認 事前調査
事前調査	県　教　委	14,400	6．7．1 ～ 7．3．31	香川県埋蔵文化財 調査センター	香　川　県	工事実施
試掘調査	県　教　委	70	6．7．4 ～ 6．7．5	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認 現状保存
事前調査	高松市教委	1,990	6．7．11 ～ 6．12．27	高松市教育委員会 山本　英之	高　松　市	工事実施
事前調査	三木町教委	20	6．7．11 ～	三木町教育委員会 石井　健一	三　木　町	包蔵地確認 事前調査
試掘調査	大川町教委	20	6．7．11 ～ 6．7．11	大川町教育委員会 萬木　一郎	町　教　委	包蔵地確認 事前調査
事前調査	大川町教委	524	6．7．15 ～ 6．7．29	大川町教育委員会 萬木　一郎 県教委指導	大　川　町	工事実施
試掘調査	県　教　委	100	6．7．18 ～ 6．7．18	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認されず
事前調査	三木町教委	400	6．7．18 ～ 6．8．10	三木町教育委員会 石井　健一	三　木　町	工事実施
事前調査	三木町教委	100	6．7．18 ～ 6．8．10	三木町教育委員会 石井　健一	三　木　町	工事実施
試掘調査	県　教　委	50	6．7．19 ～ 6．7．19	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認 事前調査
試掘調査	県　教　委	90	6．7．21 ～ 6．7．21	文化行政課 森下　英治	国　・　県	包蔵地確認 協議中

番号	遺跡				調査	
	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
39	幸田池東遺跡	大川郡志度町大字志度長行池5041－1	その他の墓	弥生	大規模宅地造成工事	志度町
40	西浦谷古墳群	木田郡三木町池戸西浦谷	古墳	古墳	高松東道路建設	建設省
41	八丁地遺跡	大川郡志度町八丁地	集落跡	縄文～中世	県道高松志度線道路改良事業	香川県
42	汲仏1号塚	高松市多肥下町11番地1他	散布地 集落跡	平安 中世	都市計画道路建設	高松市
43	タンベ池遺跡	坂出市王越町木沢字西山1732番地	散布地	旧石器 弥生	遺跡内容確認	香川県自然科学館
44	九頭神遺跡	善通寺市下吉田町九頭神113－5	集落跡	弥生 古墳	住宅建設	個人
45	清源寺古墳・樫林南遺跡	仲多度郡満濃町大字長尾2578－1	古墳	古墳	農業基盤整備事業	土地改良区
46	空港跡地遺跡	高松市林町351番地4他	集落跡	弥生 平安	農業共同組合支所建設	高松南部農業共同組合
47	剣山古墳・天満古墳	木田郡三木町大字井戸字中代乙563他	その他の墓 古墳	弥生 古墳	工場用地造成	民間企業
48	西土居遺跡群	木田郡三木町大字井戸字西土居乙531	集落跡 古墳	弥生 古墳 中世	工場用地造成	三木町
49	笠山石器散布地	坂出市谷町1丁目3996	散布地	旧石器 縄文	電力線移設工事	四国電力
50	尾端・おう塚古墳	観音寺市新田町字蓮花360－1他	古墳	古墳	育苗施設用地造成工事	広域JA
51	六條地区	善通寺市金蔵寺町六條	不明	不明	国道11号線坂出丸亀バイパス建設	建設省
52	十川東平田遺跡	高松市十川東町平田	集落跡	縄文～中世	県道高松長尾大内線道路改良	香川県
53	多肥松林遺跡	高松市多肥上町1256番地外	集落跡	縄文～中世	高松土木事務所新設	香川県
54	史跡 有岡古墳群隣接地	善通寺市善通寺町字宮が尾3223－1	散布地	古墳	史跡整備	善通寺市
55	船積寺跡	三豊郡詫間町積新田1591－1	社寺跡	平安 中世	県道紫雲出山線局部改修	香川県
56	大塚城跡	木田郡三木町大字池戸字大塚3011－2他	城館跡	中世	池戸郵便局建設	四国郵政局
57	農学部遺跡	木田郡三木町池戸2393	集落跡	弥生	農学部施設建設	香川大学

調				査		
対　処	調査主体	調査面積	調査期間	調査担当者	費用負担	調査後の措置
事前調査	志度町教委	(m²) 1,000	6．7．21 ～ 6．8．8	六車　功	原因者	工事実施
試堀調査	県教委	300	6．7．25 ～ 6．7．26	文化行政課 國木　健司	国・県	包蔵地確認 事前調査
事前調査	県教委	4,500	6．8．1 ～ 7．3．31	香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	高松市教委	14,000	6．8．1 ～ 6．8．31	高松市教育委員会 山本　英之	高松市	工事実施
測量調査	県教委	33,000	6．8．5 ～ 7．3．31	自然科学館・文化行政課 森下英治・辻　雅登	県教委他	現状保存
確認調査	善通寺市教委	100	6．8．8 ～ 6．9．9	善通寺市教育委員会 笹川　龍一	国・研・市	工事実施
試堀調査	満濃町教委	450	6．8．8 ～ 6．8．11	満濃町教育委員会 天米　賢吾他 県教委指導	町教委	包蔵地確認 協議中
事前調査	高松市教委	500	6．8．9 ～ 6．9．30	高松市教育委員会 山本　英之	原因者	工事実施
試堀調査	三木町教委	200	6．8．11 ～ 6．8．19	三木町教育委員会 石井　健一	町教委	包蔵地確認 協議中
事前調査	三木町教委	7,500	6．8．22 ～ 7．1．31	三木町教育委員会 石井　健一	三木町	包蔵地確認 事前調査
確認調査	坂出市教委	576	6．8．24 ～ 6．9．6	坂出市教育委員会 今井　和彦	国・県・市	工事実施
試堀調査	観音寺市教委	502	6．8．29 ～ 6．9．16	観音寺市教育委員会 久保田昇三	原因者	工事実施
試堀調査	県教委	400	6．8．30 ～ 6．8．31	文化行政課 森下　英治	国・県	包蔵地確認されず
事前調査	県教委	8,000	6．9．1 ～ 7．3．31	香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	県教委	5,000	6．9．1 ～ 7．3．31	香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
確認調査	善通寺市教委	100	6．9．1 ～ 6．9．30	善通寺市教育委員会 笹川　龍一	国・県・市	包蔵地確認されず
試堀調査	県教委	20	6．9．5 ～ 6．9．9	文化行政課 森下　英治	国・県・市	包蔵地確認されず
試堀調査	県教委	40	6．9．7 ～ 6．9．7	文化行政課 國木　健司	県教委	包蔵地確認 事前調査
試堀調査	県教委	20	6．9．7 ～ 6．9．7	文化行政課 國木　健司	県教委	包蔵地確認されず

番号	遺跡				調査	
	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
58	八反地遺跡	三豊郡豊中町大字上高野字八反地 2658－4	集落跡	弥生	遺跡内容確認	町教委
59	山階・青木地区	仲多度郡多度津町大字山階656－1他	不明	不明	町道建設	多度津町
60	神宮寺地区	高松市仏生山町	不明	不明	県道三谷香川線建設	香川県
61	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶2464番地1	集落跡	中世	病院併設個人住宅	個人
62	富田茶臼山古墳群	大川郡大川町富田中	古墳	古墳	大川地区県営ほ場整備事業	香川県
63	木太本村遺跡	高松市木太町本村	不明	弥生 古墳	宮川改修工事	香川県
64	八丁地遺跡	大川郡志度町大字志度八丁地	集落跡	弥生 奈良	水道管布設工事	志度町
65	小谷窯跡群	木田郡三木町井上，大川郡長尾町昭和	生産遺跡	古墳	高松東ファクトリーパーク開発事業	香川県
66	沙弥・ナカンダ浜遺跡	坂出市沙弥島 186－1	散布地	弥生 古墳	個人専用住宅	個人
67	東田中地区	木田郡三木町田中 4732他	不明	不明	県営圃場整備事業（東田中地区）	香川県
68	大窪谷地区	綾歌郡飯山町下法軍寺1638番地他	不明	不明	団体営土地改良総合整備事業（大窪谷地区）	土地改良区
69	無名塚	仲多度郡琴南町造田 699番地他	その他の墓	不明	農村総合整備モデル事業	琴南町
70	千町遺跡	大川郡大川町富田中 2147－3	集落跡	古墳 奈良	富田駐在所新築工事	香川県
71	天神山古墳	木田郡三木町大字鹿伏小字鹿伏東	古墳	古墳	土砂採取	三木町
72	清水地区	香川郡香南町岡字清水	不明	不明	国道193号線建設	香川県
73	兀塚遺跡	高松市円座町584他	集落跡	奈良 平安	県道三木国分寺線建設	香川県
74	寺田地区	大川郡大川町富田西字寺田	不明	不明	県道富田西志度線建設	香川県
75	石田高校校庭内遺跡	大川郡寒川町石田東 甲1373－2他	集落跡	弥生 古墳	大規模店舗建設	民間企業
76	南天枝地区	木田郡三木町田中 1029番地他	不明	不明	県道高松長尾大内線建設	香川県

調				査		
対　処	調査主体	調査面積	調査期間	調査担当者	費用負担	調査後の措置
確認調査	豊中町教委	(m²) 409	6．9．26 ～ 6．11．30	豊中町教育委員会 森　裕行	国・県・町	現状保存
確認調査	多度津町教委	90	6．10．3 ～ 7．3．31	多度津町教育委員会 岡　敦憲	国・県・町	包蔵地確認されず
試堀調査	県　教　委	120	6．10．4 ～ 6．10．30	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認 事前調査
試堀調査	綾南町教委	140	6．10．6 ～ 6．10．7	綾南町教育委員会 田中　正博 県教委指導	町　教　委	包蔵地確認 事前調査
試堀調査	県　教　委	40	6．10．6 ～ 6．10．13	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認 現状保存
事前調査	県　教　委	1,000	6．10．6 ～ 6．10．14	文化行政課 國木　健司	香　川　県	工事実施
事前調査	志度町教委	21	6．10．7 ～ 6．10．7	志度町教育委員会 大高　博 県教委指導	志　度　町	工事実施
試堀調査	県　教　委	80	6．10．17 ～ 6．10．20	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認 協議中
試堀調査	坂出市教委	38	6．10．17 ～ 6．11．18	坂出市教育委員会 今井　和彦	国・県・市	包蔵地確認 事前調査
試堀調査	県　教　委	150	6．10．24 ～ 6．10．26	文化行政課 森下　英治	国　・　県	包蔵地確認 事前調査
試堀調査	飯山町教委	185	6．10．27 ～ 6．10．31	飯山町教育委員会 澤井千恵子 県教委指導	町　教　委	包蔵地確認 現状保存
試堀調査	琴南町教委	138	6．11．1 ～ 6．11．4	琴南町教育委員会 松坂　夏人 県教委指導	町　教　委	包蔵地確認 現状保存
事前調査	県　教　委	90	6．11．1 ～ 6．11．7	文化行政課 國木　健司	香　川　県	包蔵地確認 事前調査
事前調査	三木町教委	1,000	6．11．1 ～ 6．11．30	三木町教育委員会 石井　健一 県教委指導	三　木　町	工事実施
試堀調査	県　教　委	160	6．11．10 ～ 6．11．11	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認 協議中
試堀調査	県　教　委	240	6．11．10 ～ 6．11．11	文化行政課 森下　英治	国　・　県	包蔵地確認されず
試堀調査	県　教　委	400	6．11．11 ～ 6．11．15	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認 事前調査
試堀調査	寒川町教委	518	6．11．15 ～ 6．11．20	寒川町教育委員会 多田　俊 県教委指導	町　教　委	包蔵地確認 事前調査
試堀調査	県　教　委	800	6．11．17 ～ 6．11．22	文化行政課 國木健司・森下英治	香　川　県	包蔵地確認 協議中

番号	遺跡				調査	
	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
77	沙弥ナカンダ浜遺跡	坂出市沙弥島 186－1	散布地	縄文 弥生 古墳	個人専用住宅建設	個人
78	柳谷遺跡	坂出市大屋富町柳谷	散布地	弥生	五色台ビジターセンター建設	環境庁
79	福万遺跡	木田郡三木町大字氷上字福万	その他の遺跡	弥生 奈良 中世	県道高松長尾大内線建設	香川県
80	原遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊東 3439，3442－1	不明	不明	団体営土地改良総合整備事業原地区	土地改良区
81	白鳥廃寺	大川郡白鳥町湊 1184－1他	社寺跡	奈良	町営住宅「山下団地」建設事業	白鳥町
82	宮西・一角遺跡	高松市林町6－95他	散布地	奈良 平安	市道林町47号線拡幅工事	高松市
83	原竜王山2号墳	綾歌郡綾歌町栗熊西 3308－1	古墳	古墳	土砂採取	個人
84	史跡 富田茶臼山古墳	大川郡大川町富田中 3407－2番地先町道	古墳	古墳	下水道工事	大川町
85	北山楠神社塚古墳	仲多度郡満濃町大字長尾2221－2他	古墳	古墳	農業基盤整備事業	土地改良区
86	権現さん古墳	三豊郡高瀬町大字上高瀬596－1	古墳	古墳	公園造成工事	高瀬町
87	彼ノ宗遺跡	善通寺市仙遊町2丁目680－226他	集落跡	弥生 中世	弘田川改修工事	香川県
88	富田茶臼山2号陪塚	大川郡大川町富田中 3336－1ほか	古墳	古墳	遺跡内容確認	町教委
89	北原地区	綾歌郡綾歌町岡田東北原	不明	不明	県営単独緊急農道整備	香川県
90	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町 1－3－1	集落跡	弥生 古墳	四国農業試験場パイプライン等設置工事	四国農業試験場
91	西村遺跡（川北西地区）	綾歌郡綾南町大字陶1989番地3	集落跡	中世	宅地造成	個人
92	田中南原遺跡	木田郡三木町田中	集落跡	弥生	県営ほ場整備事業東田中地区	香川県
93	友信士居跡	三豊郡豊中町大字比地大1349－1	その他の遺跡（居館跡）	中世	遺跡内容確認	町教委
94	北原3号墳	善通寺市善通寺町 4115他	古墳	古墳	県道観音寺善通寺線建設工事	香川県
95	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶2464番地1	集落跡	中世	住宅・診療所建設	個人

調				査		
対　処	調査主体	調査面積	調査期間	調査担当者	費用負担	調査後の措置
事前調査	坂出市教委	(m²) 38	6．11．17 ～ 6．11．12	坂出市教育委員会 今井　和彦	市　教　委	工事実施
試堀調査	県　教　委	80	6．11．18 ～ 6．11．18	文化行政課 森下　英治	県　教　委	包蔵地確認されず
事前調査	県　教　委	1,500	6．11．24 ～ 6．12．7	文化行政課 國木　健司	香　川　県	工事実施
事前調査	綾歌町教委	135	6．11．26 ～ 6．12．16	綾歌町教育委員会 近藤　武司 県教委指導	町　教　委	工事実施
試堀調査	白鳥町教委	100	6．11．28 ～ 6．11．30	白鳥町教育委員会 橋本　守 県教委指導	町　教　委	工事実施
事前調査	高松市教委	400	6．11．30 ～ 7．3．31	高松市教育委員会 山本　英之	高　松　市	工事実施
試堀調査	綾歌町教委	40	6．12．2 ～ 6．12．2	綾歌町教育委員会 近藤　武司 県教委指導	町　教　委	現状保存
試堀調査	大川町教委	13	6．12．5 ～ 6．12．9	大川町教育委員会 萬木　一郎	町　教　委	遺構等検出されず
試堀調査	満濃町教委	200	6．12．5 ～ 7．1．31	多度津町教育委員会 岡　敦憲 多度津町教委指導	町　教　委	包蔵地確認 協議中
試堀調査	高瀬町教委	40	6．12．9 ～ 6．12．27	豊中町教育委員会 森　裕行 豊中町教委指導	町　教　委	包蔵地確認されず
事前調査	県　教　委	64	6．12．12 ～ 6．12．16	文化行政課 森下　英治	香　川　県	工事実施
試堀調査	大川町教委	60	6．12．15 ～ 7．1．10	大川町教育委員会 萬木　一郎 県教委指導	町　教　委	協議中
試堀調査	県　教　委	50	6．12．16 ～ 6．12．16	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認されず
事前調査	県　教　委	100	6．12．19 ～ 6．12．27	文化行政課 森下　英治	四国農業 試験場	工事実施
試堀調査	綾南町教委	50	6．12．20 ～ 6．12．20	片桐　節子	町　教　委	包蔵地確認されず
事前調査	三木町教委	101	6．12．21 ～ 6．12．28	三木町教育委員会 石井　健一	香　川　県	工事実施
確認調査	豊中町教委	333	7．1．5 ～ 7．3．31	豊中町教育委員会 森　裕行	国・県・町	現状保存
事前調査	県　教　委	700	7．1．9 ～ 7．2．17	文化行政課 森下　英治	香　川　県	工事実施
事前調査	綾南町教委	300	7．1．10 ～ 7．2．10	片桐　節子	個　　人	工事実施

番号	遺跡				調査	
	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
96	境目・下西原遺跡	高松市松縄町 141番地 地先他	散布地 集落跡	弥生 奈良	都市計画道路木太鬼無線建設	高松市
97	原中村遺跡	木田郡牟礼町大字 原字中村	集落跡	弥生	県道高松志度線建設	香川県
98	弘福寺領讃岐国山田郡田面南地区比定地	高松市林町42番地 5～9	散布地 生産遺跡	奈良	遺跡内容確認	市教委
99	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶 1988番地3	集落跡	中世	町道拡幅工事	綾南町
100	中の池遺跡	丸亀市金倉町780他	散布地 集落跡	弥生	総合運動公園建設に伴う水路整備	丸亀市
101	母神山古墳群	観音寺市池之尻町字 山越1101－2番地	古墳	古墳	三豊総合運動公園拡張事業	三豊広域行政事務組合
102	讃岐国府跡	坂出市府中町 5127－3	官衙跡	古墳～中世	個人専用住宅	個人
103	高松城跡	高松市玉藻町 102－1	都城跡	近世	県民ホール小ホール建設	香川県
104	石田高校校庭内遺跡	大川郡寒川町石田東 甲1340番地他26筆	集落跡	弥生 古墳 奈良 平安 中世	大型店舗建設	民間企業
105	行末西遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊東 1170－1	その他の遺跡	その他	町道西行末本村線道路改良	綾歌町
106	城山明神原遺跡	坂出市府中町 6193－2，6194－2	城館跡	奈良 平安 中世	遺跡範囲確認	市教委
107	七つ塚古墳群	木田郡三木町池戸 1066－1他	古墳	古墳	農村活性化住環境整備事業（三木北部地区）	香川県
108	川南遺跡・若宮・本村遺跡	高松市春日町 398－3他，新田町2567他	その他の遺跡	その他	都市計画道路室町－新田線建設	高松市
109	定連池東丘1号墳	綾歌郡綾歌町栗熊西 217－1	古墳	古墳	町道烏田畦田線改良工事	綾歌町
110	石仏地区	大川郡大川町富田中 1450他	不明	不明	県営ほ場整備事業（大川地区）	香川県
111	西山田古墳群	大川郡長尾町造田 是弘1174－1他66筆	古墳	古墳	工業団地（流通センター）造成	長尾町
112	木太本村地区	高松市木太町本村	不明	不明	宮川改修工事	香川県
113	八丁地地区	大川郡志度町大字 志度字八丁地	不明	不明	県道高松志度線建設	香川県
114	奥池旧石器散布地	坂出市川津町奥 1906－1～2	散布地	旧石器	遺跡内容確認	市教委

調				査		
対　処	調査主体	調査面積	調査期間	調査担当者	費用負担	調査後の措置
事前調査	高松市教委	(m²) 3,500	7．1．10 ～ 7．3．31	高松市教育委員会 山本　英之	高　松　市	工事実施
事前調査	県　教　委	600	7．1．17 ～ 7．2．10	文化行政課 國木　健司	香　川　県	工事実施
確認調査	高松市教委	320	7．1．19 ～ 7．3．31	高松市教育委員会 山本　英之	国・県・市	現状保存
事前調査	綾南町教委	80	7．1．20 ～ 7．1．25	片桐　節子	町　教　委	包蔵地確認されず
試堀調査	丸亀市教委	3,200	7．1．23 ～ 7．2．28	丸亀市教育委員会 東　　信男	丸　亀　市	包蔵地確認 協議中
試堀調査	観音寺市教委	61	7．2．6 ～ 7．2．10	観音寺市教育委員会 久保田昇三	市　教　委	包蔵地確認 協議中
試堀調査	坂出市教委	10	7．2．13 ～ 7．2．16	坂出市教育委員会 今井　和彦	国・県・市	工事実施
事前調査	県　教　委	162	7．2．17 ～ 7．3．31	文化行政課 藤好史郎・森下英治	県　教　委	工事実施
事前調査	県　教　委	11,180	7．2．20 ～ 7．7．31	寒川町教育委員会 山本　一伸 県教委指導	原　因　者	工事実施
事前調査	綾歌町教委	100	7．3．1 ～ 7．3．15	綾歌町教育委員会 近藤　武司 県教委指導	綾　歌　町	工事実施
測量調査	坂出市教委	200	7．3．1 ～ 7．3．17	坂出市教育委員会 今井　和彦	国・県・市	現状保存
試堀調査	県　教　委	200	7．3．7 ～ 7．3．10	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認 協議中
事前調査	高松市教委	1,200	7．3．8 ～ 7．3．27	高松市教育委員会 山元　敏裕	国・県・市	包蔵地確認 協議中
試堀調査	綾歌町教委	200	7．3．10 ～ 7．3．20	綾歌町教育委員会 近藤　武司 県教委指導	町　教　委	包蔵地確認 現状保存
試堀調査	県　教　委	460	7．3．10 ～ 7．3．20	文化行政課 森下　英治	国　・　県	包蔵地確認 協議中
試堀調査	長尾町教委	8,000	7．3．13 ～ 7．3．31	長尾町教育委員会 吹田　健児 県教委指導	町　教　委	包蔵地確認 協議中
試堀調査	県　教　委	100	7．3．17 ～ 7．3．20	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認されず
試堀調査	県　教　委	100	7．3．22 ～ 7．3．23	文化行政課 國木　健司	国　・　県	包蔵地確認されず
測量調査	坂出市教委	500	7．3．22 ～ 7．3．24	島根大学 竹広　文明	市教委他	現状保存

特別名勝栗林公園

1．所 在 地　　高松市栗林町1564－2

2．調査主体　　香川県教育委員会

3．調査期間　　平成6年4月21～22日

4．調査面積　　40m²

5．調査担当者　文化行政課　森下英治

6．調査の原因　栗林公園観光事務所造園課庁舎改築工事に伴う試掘調査

第1図　遺跡の位置

7．調査結果の概要

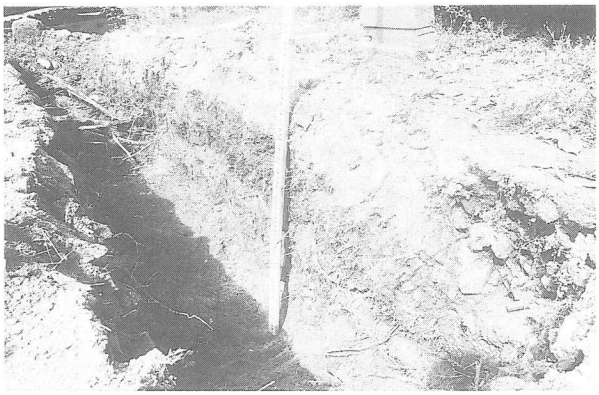
調査地は特別名勝栗林公園の南東部に位置する。トレンチを7箇所設置し，地下遺構の確認を行った。周辺は1842年「栗林分間図」によれば「薮」と表現された箇所である。調査の結果，地表下40～130cmで旧地表を確認した。一部において谷状の地形が復元できる。当該箇所は，戦後，本格的に整地され，土地利用されはじめたものと推定される。出土遺物は近世～近代の陶磁器が少量出土した。

8．まとめ

当該調査地は，庭園造成時，あるいはその後においてもさほど手を加えられなかったものと考えられた。絵図では既存の事務所あたりに垣などの構造物が描かれており，これが遺構として遺存する可能性が残っているため，既存建物撤去後に改めて試掘して確認する必要が認められた。

（森下）

第2図　トレンチ掘削状況


第3図　旧地表検出状況

高　松　城　跡

1．所 在 地　　高松市玉藻町102－1
2．調査主体　　香川県教育委員会
3．調査期間　　平成7年2月7日～3月31日
4．調査面積　　225m²
5．調査担当者　文化行政課
　　藤好史郎・森下英治
6．調査の原因　県民ホール小ホール建設に伴う事前・確認調査
7．調査結果の概要

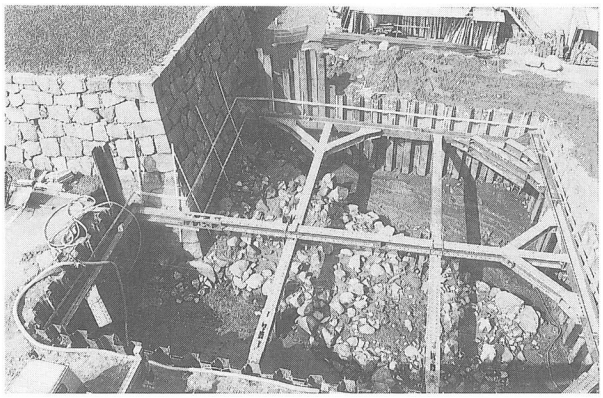
第1図　遺跡の位置

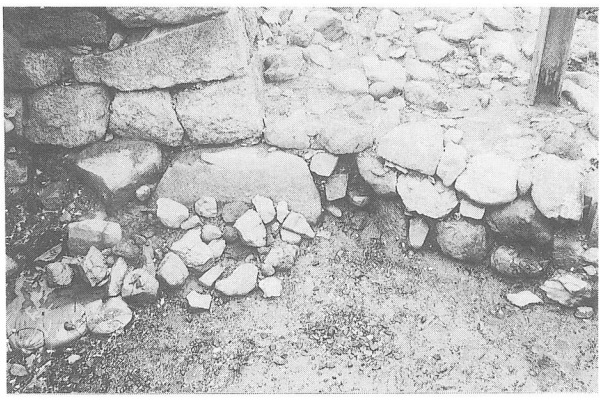
調査地は史跡高松城跡東ノ丸艮櫓台の北東にあたる。江戸時代後期の絵図等により，当該箇所に突堤が所在することが判明していた。また，17世紀後半に描かれた「高松城下図屏風」は，松平頼重の東ノ丸築造前の高松城の姿を精巧に記録した屏風絵であるが，後の艮櫓付近には北東に短く突き出た突堤石垣が表現されている。以上の文献史料の実証と，考古学的資料の収集，また埋没している艮櫓台石垣の記録作成を目的として発掘調査を実施したものである。

調査の結果，地表下2.9mの深さで，幅6.5m，残存高1.2mの突堤が検出された。石積みは2～3段が遺存しており，明治時代中期の写真史料を参考にすると，上部約1.5mほどがすでに損壊していることが判明した。また，波浪を直接受けていたと思われる西側の石積みは一部で補修の痕跡が認められた。艮櫓石垣は，地表下2.9mの第11石目で根石列を確認した。隅石は表面加工が認められるが，ほかは未加工である。記録作成後，屏風絵の突堤が下層に埋没していないかどうかの確認を，突堤石材を除去しながら探索したが，確認するに至らなかった。出土遺物は瓦・陶磁器・鉄器がある。

8．まとめ

地表下に埋没している艮櫓台石垣や，その付属突堤について正確な記録作成が実施できたことは有益であった。突堤は櫓との連結状況から，1671年の櫓築造後の早い時期に敷設された可能性が高い。下層に推定された突堤については，櫓下層に埋没している可能性が残った。（森下）


第2図　突堤検出状況


第3図　艮櫓台石垣根石検出状況

史跡・天然記念物　屋島

1．所 在 地　　高松市屋島西町

2．調査主体　　香川県教育委員会

3．調査期間　　平成７年３月30～31日

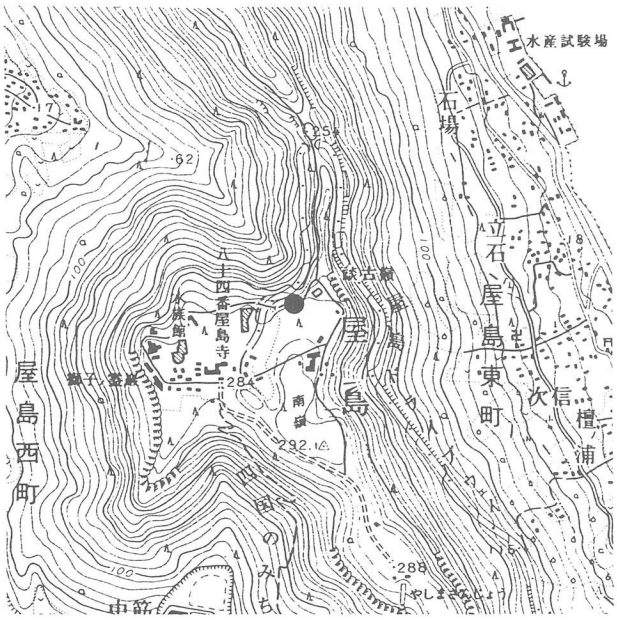
4．調査面積　　30m²

5．調査担当者　文化行政課　國木健司

6．調査の原因　屋島南嶺園地事業に伴う試掘調査

7．調査結果の概要

調査地は屋島南嶺に設置されている遊歩道沿いの４箇所の整備予定地である。１～３トレンチは南嶺北側縁辺に，４トレンチは東側縁辺に設定した。調査は小型重機で掘削し，地山を検出し，面精査を行って遺構等の検出に努めた。

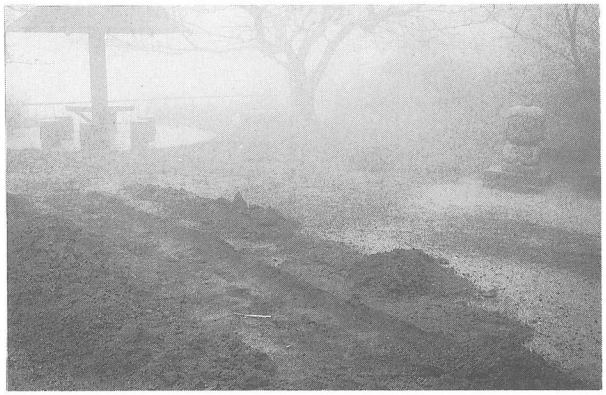


第１図　遺跡の位置

調査の結果，１・２トレンチは削平された地山面を確認し，４トレンチでは東への自然傾斜が確認された。３トレンチでは東への緩やかな傾斜面の東端付近で，厚さ40cmの暗赤褐色粘土の堆積がみられ，その層位に遺物の包含はなかったが，上層の客土層から弥生土器の小片が出土した。

8．まとめ

今回の調査対象地においては，埋蔵文化財包蔵地は所在しないことが判明したが，３トレンチ客土層から出土した弥生土器は，周辺に弥生時代の集落跡が所在することを示唆している。今後，屋島南嶺山上地区においては古代の屋島城跡・中世の屋島寺に加えて，弥生時代の高地性集落もその確認の対象とすべき点が明らかになった意味において，重要な成果であったと言える。(國木)



第２図　トレンチ掘削状況

第３図　トレンチ掘削状況

砂　入　遺　跡

1．所 在 地　　木田郡三木町池戸字大塚
3011－2他

2．調査主体　　香川県教育委員会

3．調査期間　　平成6年9月7日

4．調査面積　　43m²

5．調査担当者　文化行政課　國木健司

6．調査の原因　池戸郵便局建設に伴う試掘調査

7．調査結果の概要

当該地は，中世城館「大塚城跡」推定地に隣接し，当初中世の遺構・遺物の所在が予想された。事業予定地内に2箇所のトレンチを設定し，地下遺構の確認を行った。

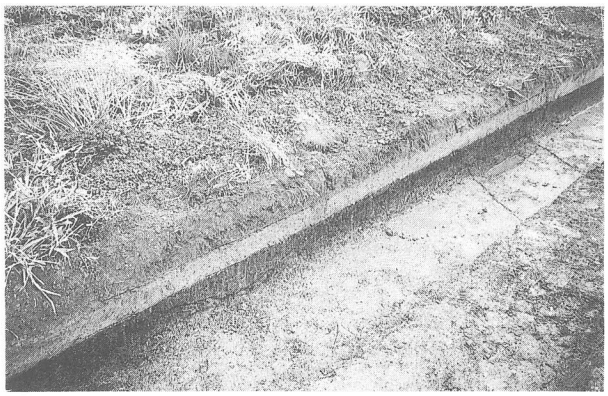
第1図　遺跡の位置

調査の結果，弥生時代および古墳時代の遺構面がそれぞれ検出され，厚さ15cmの濃密な土器包含層が伴っている。遺構の内容は，竪穴住居，柱穴，溝である。出土遺物は弥生土器，古式土師器，須恵器，石鏃である。

8．まとめ

今回の調査では中世の遺構・遺物は検出されず，中世城館の可能性は低いと言える。両トレンチからは弥生時代後期末から古墳時代初頭にかけての遺物が多量に出土し，集落遺構を確認した。出土土器中に高松平野西部地域の土器が多い点，また，布留式土器が含まれる点等遺跡の内容において注目すべきものと考えられる。各遺構は厚く堆積した砂層上層を遺構面としており，当該遺跡は吉田川沿いに形成された自然堤防上に帯状かつ広範囲に展開したものと考えられる。

（國木）


第2図　トレンチ掘削状況

第3図　弥生時代遺構面検出状況

母神山古墳群

1．所 在 地　　観音寺市池之尻町
　　字山越，字母神
2．調査主体　　観音寺市教育委員会
3．調査期間　　平成７年２月６～10日
4．調査面積　　約61㎡
5．調査担当者　観音寺市教育委員会
　　久保田昇三
6．調査の原因　三豊総合運動公園拡張事業
7．調査結果の概要

調査は下記の試掘トレンチを設定し遺跡の有無の確認を行った。結果は次のとおりである。

Ｔ１－１　土下約30cmで長径80cm程度の玄門石並びに表土下約90cmに玄室の側壁の石列と推定されるものを確認した。石列上面より須恵器片出土。トレンチ北側土層に版築を確認。

Ｔ１－２　表土下約50cmで一辺70cm程度の玄門石とそれに隣接して玄室の石材を確認。

Ｔ１－３墳丘の築造状況を確認した。

Ｔ２，Ｔ３，Ｔ４遺構・遺物なし

第１図　遺跡の位置

8．まとめ

試掘調査の結果，横穴式石室を有する直径20ｍの円墳と推定されるが，遺跡の残存状況は悪くかなりの盗掘をうけており石室の天井石，羨道部の石材も抜き取られている状態であった。また，出土品は，須恵器片が20点程度であったが，昭和62年４月に当遺跡の西側（石室開口方向）墳裾部付近より須恵器片が多数採集されている。位置的にも本遺跡との関係が想定され，築造年代を検討する手掛かりとなるが両者の因果関係を明らかにするなど，今後の詳細な研究が必要であろう。また，時期を同じくして，須恵器片が採集された隣接地から弥生時代後期のものと思われる壺棺が出土しており本遺跡の性格を考察するうえで参考になると考えられる。

最後に，調査期間が短期間であったため遺跡の有無の確認のみで調査を終了したが，遺跡の全体像を把握するには今後の本格的な調査が必要である。（久保田）

第２図　Ｔ１－１・Ｔ１－２全景（西より）

第３図　Ｔ１－３石列出土状況

尾端・おう塚古墳

1．所 在 地　　観音寺市新田町
　　字蓮花，字尾端（おばな）
2．調査主体　　観音寺市教育委員会
3．調査期間　　平成６年８月29日～９月19日
4．調査面積　　約502㎡
5．調査担当者　観音寺市教育委員会
　　久保田昇三
6．調査の原因　育苗施設用地造成工事事業
7．調査結果の概要

試掘トレンチを20箇所設定し試掘調査を行ったが，幾度にもわたる（大正初期，昭和30年代等）の畑の開墾，樹園地の造成等により削平，攪乱が激しく遺構の検出，困難な状況であった。

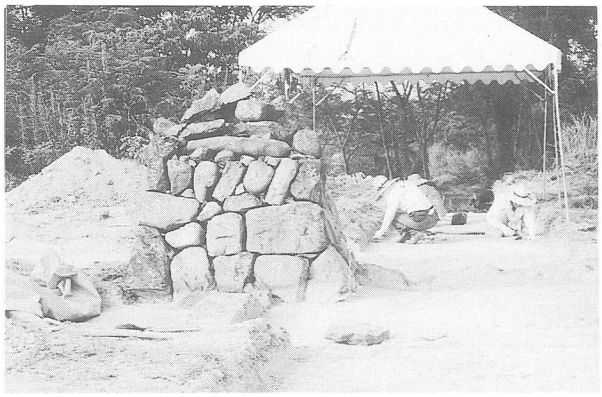
遺物については，５～14号トレンチ内においては，サヌカイト片，須恵器片が合計で数点ではあるが出土している。また，７号トレンチの南斜面部のトレンチにおいては，弥生式土器片，須恵器片，石鏃等が混在して出土した。土器の破砕部分の磨耗度合いが極めて著しく，削平，攪乱による二次的な堆積層であると思われる。

第１図　遺跡の位置

8．まとめ

本調査区は尾端・おう塚古墳が存在していた周知の包蔵地であったが，それのものとみられる遺構は確認できなかった。尾端古墳の所在はこれまで第２図石積のある場所とされていたが，この石積は古墳を破壊した後，その石室の石材を利用し供養のため元の場所とは異なる所に設けられた供養塔であるらしく，元の位置は地元古老からの聞取り調査によれば前途の７号トレンチ南斜面部にあったようである。また，古墳名は不明であるが調査区東側中央部に尾根が半分削られ水田がひらかれている場所にも１基古墳が存在していたようである。どちらも詳細は不明である。築造年代については出土した須恵器が副葬品の一部であると仮定するならば７世紀以降のものと推定される。

最後に，当該古墳築造以前に弥生後期頃の遺跡が存在していた可能性があり同菩提山麓南方の藤ノ谷遺跡，岩鍋遺跡との関係が考えられ，今後の検討課題である。（久保田）


第２図　石積付近の発掘作業風景

第３図　石積の解体状況

友信土居跡遺跡

1．所 在 地　　三豊郡豊中町大字比地大 1349―1他

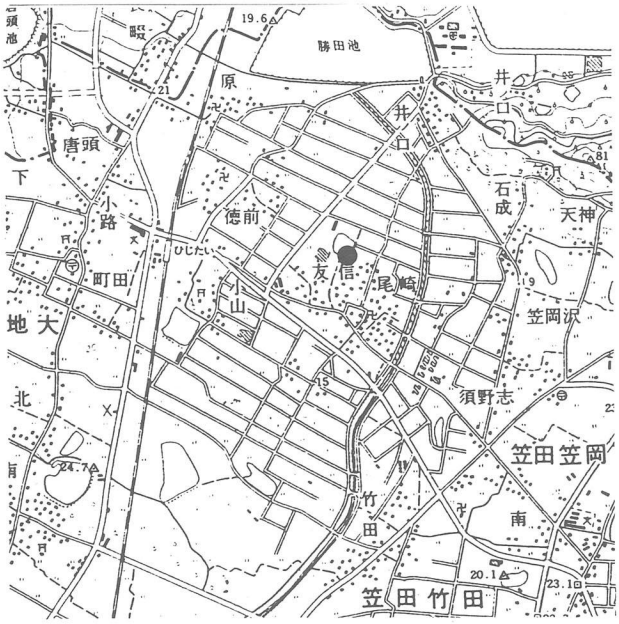
2．調査主体　　豊中町教育委員会

3．調査期間　　平成7年1月9日～3月31日

4．調査面積　　約220m²

5．調査担当者　豊中町教育委員会　森　裕行

6．調査の原因　豊中町内発掘調査事業（国庫補助）



第1図　遺跡の位置

7．調査結果の概要

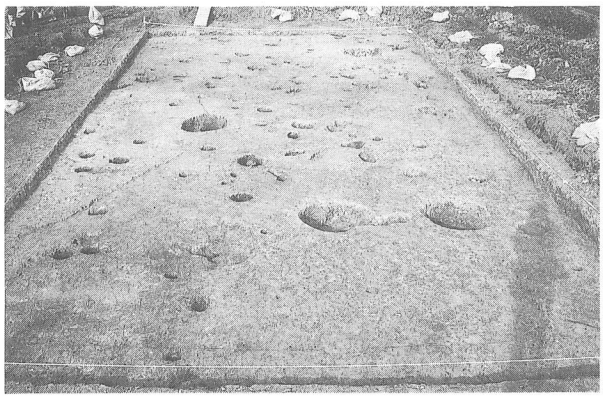
今回の調査をおこなった友信土居跡遺跡は古くより昔の館跡だと言われてきていたが，遺物などの表採はなかった。しかし水田の地形が旧堀跡を認識させるように残っていた。

最初に堀跡と思われる水田にトレンチを設定して掘り方を進めた，約1メートルほどのところで堀の底部と立ち上がり部分を検出した。このことにより底部は7尺幅であることが確認された。トレンチ設定場所が既存の集落道に隣接しているために，上部の幅に関しては確認されていないが，水田の現状より20尺程度ではないかと想定される。堀に囲まれた部分で3ケ所トレンチを設定したが，そのなかの1ケ所で多数の柱穴と柱根を検出している。遺物は素焼きの土器類と青磁片1点，輸入銭1点等を検出している。

8．まとめ

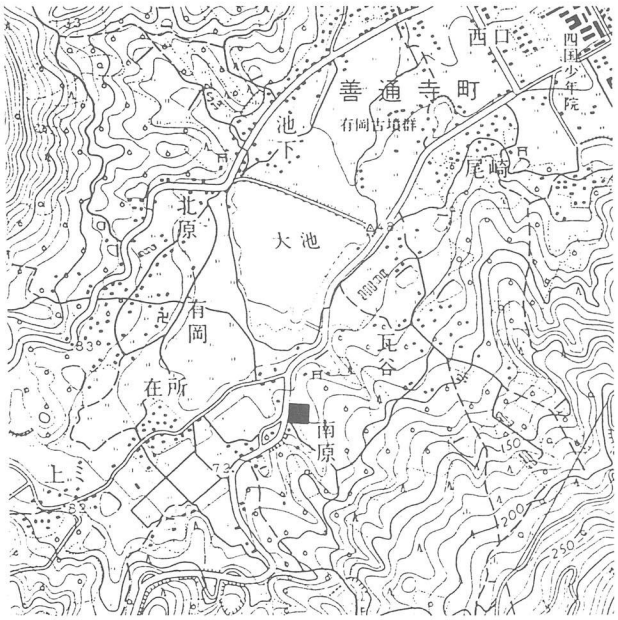
友信土居跡遺跡は，中世の初期にはすでに存在していたと思われる館跡であることが確認された。今回の調査では，遺構の主要部分については，調査していないために遺跡の完全な把握はできないが，概要については把握できると考える。館跡は約20尺幅の堀に囲まれた160尺×200尺の敷地を持つものと考えられる。中軸は北北東である。（森）

第2図　堀跡検出状況


第3図　ピット群検出状況

宮 が 尾 古 墳

1．所 在 地　　善通寺善通寺町3223－1ほか
2．調査主体　　善通寺市教育委員会
3．調査期間　　平成6年9月2～30日
4．調査面積　　実掘500m²　対象面積2000m²
5．調査担当者　善通寺市教育委員会
　　笹川龍一
6．調査の原因　史跡有岡古墳群保存整備事業
　　善通寺市内遺跡調査事業



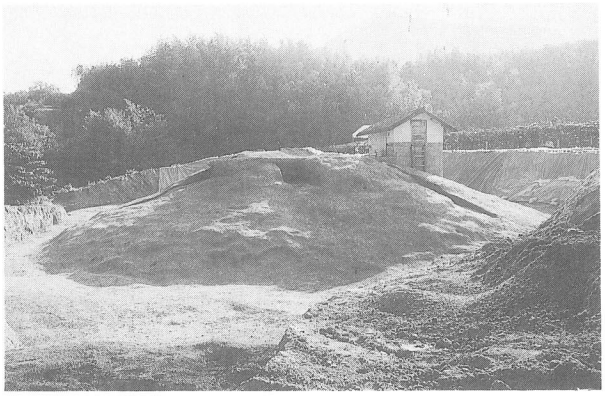
第1図　遺跡の位置

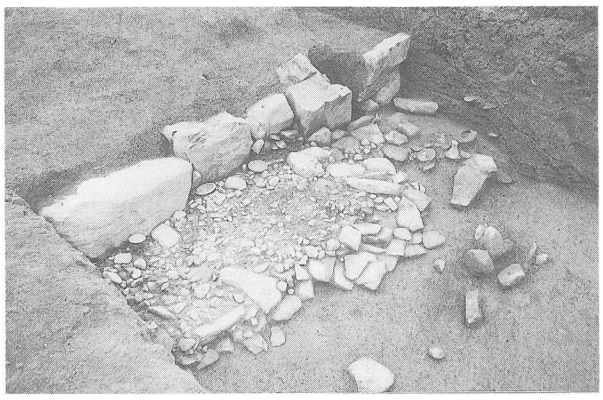
7．調査結果の概要

本市では古代の集落遺跡は平野部に展開し，市街地南西の丘陵部は古墳地帯であることが知られており，昭和57年度の王墓山古墳発掘調査を契機に，主要古墳6基が史跡指定を受け，昭和61年度から史跡の保存整備事業が行われている。今年度は線刻壁画で知られる宮が尾古墳保存整備事業に伴う発掘調査と，史跡活用のために市が整備を計画している隣接地の遺構確認調査が実施された。宮が尾古墳は平成4年度の確認調査で直径約22mの円墳が地中に埋没していることが判明し，平成5年度に公有地化された。そして本年度は墳丘を表出させるための発掘調査が実施された。開口部は崩壊し埋没していたが，全体的に遺存状況は良好であり，その西側に隣接してもう一基の古墳が発見された。隣接地では墓道等の関連遺構の存在が予想されたが，近世頃に水田として削平されており，遺構が存在していないことが判明した。

8．まとめ

宮が尾第2古墳の発見は史跡である宮が尾古墳を研究する上で極めて価値が高い。宮が尾古墳は見事な線刻画による装飾古墳であるが，盗掘等により副葬品は殆どが失われており被葬者を知る手掛かりは極めて少ない。ところが，宮が尾第2古墳は石室は半壊しているものの副葬品は豊富に残されており，継続調査で宮が尾古墳の被葬者を知る手掛かりが得られる可能性が考えられる。両者の位置関係等から，6世紀未頃に構築された宮が尾古墳とその隣に7世紀初頭に構築された第2古墳の濃密な関係は疑いないものである。継続調査に期待が寄せられる。（笹川）


第2図　宮が尾古墳検出状況


第3図　宮が尾第2古墳玄室検出状況

九　頭　神　遺　跡

1．所 在 地　　善通寺市下吉田町九頭神13-5
2．調査主体　　善通寺市教育委員会
3．調査期間　　平成６年８月15日～９月１日
4．調査面積　　掘削13m²　対象面積317m²
5．調査担当者　善通寺市教育委員会
　　笹川龍一
6．調査の原因　善通寺市内遺跡調査事業
7．調査結果の概要

第１図　遺跡の位置

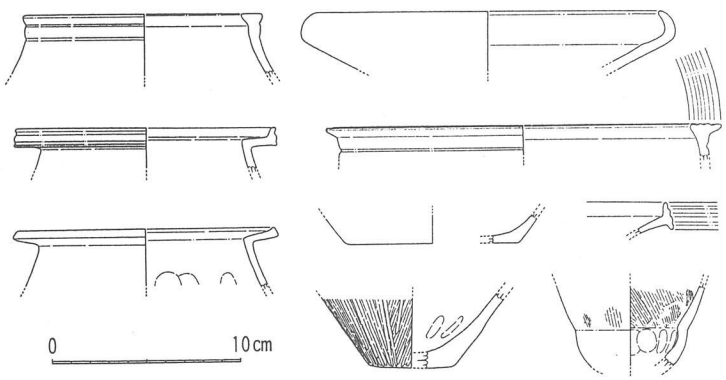
調査対象地は昭和62年に都市計画道路建設に伴い発掘調査が実施され，弥生時代中期から古墳峙代にかけての集落遺跡が確認された場所から南東に約300ｍの位置にある。同一微高地に立地していることから同様の遺跡が広がる可能性が考えられたが，この周辺は近年宅地化が進んでおり，遺跡の範囲や性格を明確にするために，県教育委員会と協議の上，国庫補助・県費補助による埋蔵文化財調査事業を実施した。調査は遺構の確認を目的に，調査対象地内三ヶ所に小規模なトレンチを設定し発掘調査を実施したところ，耕作土直下で弥生時代前期（畿内第Ｉ様式後半）から後期末頃までの土器・石器片が検出されたが，いずれも砕片であり摩滅したものであった。そして地山は削平されていたが，調査地内では東から西に下る緩やかな傾斜地形が確認できた。

8．まとめ

当該地は九頭神遺跡の南東側に南北に延びる小規模な微高地に形成された集落遺跡西端の傾斜地に相当し，その間は小規模な流路で分断されているようであるが，出土した遺物が同時期のものであることなどから，広義に解釈すれば九頭神遺跡の一部と考えることができる。

また，遺物の出土状況や同一の包含層に各時期の遺物が含まれていることから，包含層は二次堆積であり，遺構面まで攪乱を受けていたため，この地の古環境等を明らかにすることは出来なかったが，中期（畿内第Ⅲ様式後半）頃から後期末頃までの遺物が多かったことから，昭和62年度の調査地と類似した環境がこの東側に広がることが予想される。（笹川）

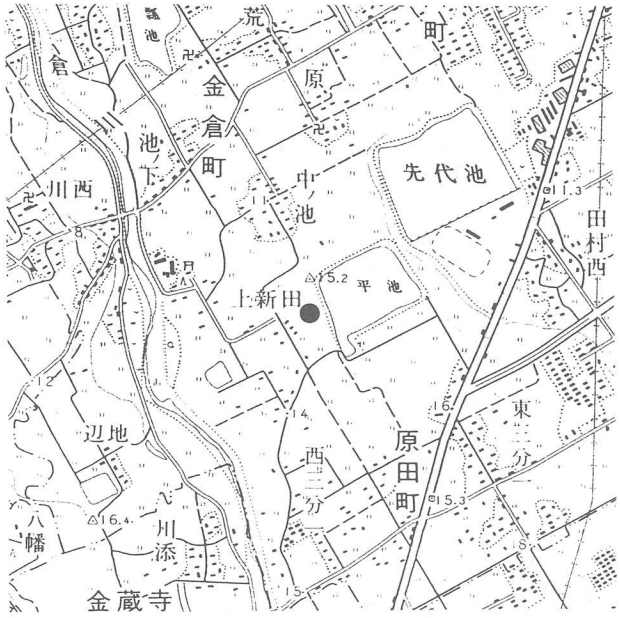
第２図　トレンチ設定状況



第３図　出土遺物実測図

平池東・西遺跡

1．所 在 地　　丸亀市金倉町
2．調査主体　　丸亀市教育委員会
3．調査期間
　　平池東　平成６年12月～７年８月31日
　　平池西　平成７年２月１日～16日
4．調査面積　　平池東　約50㎡
　　平池西　約90㎡
5．調査担当者　丸亀市教育委員会　東　信男
6．調査の原因　総合運動公園建設のため
7．調査結果の概要



第１図　遺跡の位置

平池東遺跡は，総合運動公園整備事業に伴う調整池の造成のため，試掘調査の結果をもとに本調査を実施した。調査の結果，弥生時代の溝を３条検出した。東側の溝はほぼ磁北へ延びるもので，幅140cm，深さ22cm，長さ22m以上の溝で，弥生前期の土器片が出土している。中央の溝もほぼ磁北方向に走り，幅110cm，深さ30cm，長さ40m以上の溝であり，遺物は北側で，弥生土器の小片とサヌカイト片が出土した。西側の溝は幅114cm，深さ31cm，長さ19m以上で弧状に巡る。土器は小片が出土している。

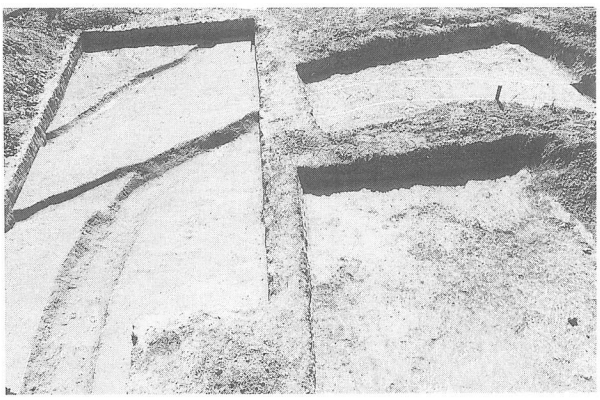
平池西側では約800mの長さにわたり，試掘調査を実施した。調査範囲の最北部で中の池様式の弥生前期の土器が出土し，北側の広い範囲で包含層が広がることが確認された。

8．まとめ

平池東遺跡の調査結果は弥生時代の溝を検出した。東側の溝は弥生時代前期の遺物を包含している。西側の溝については，東・中央の溝と違い弧状に巡る。溝の中央部を調査したが遺構の検出はなかった。この調査地域は耕作土直下で遺構面となり，溝の遺構しか検出されていないことから，田畑の耕作によって弥生時代の遺構面は消失しているものと思われる。それ以前の遺構はなく，自然流路となっていた。

平池西側では，調査区北側の中の池遺跡に近いところで，中の池様式の土器を含む土坑や溝を確認した。また，調査区中央部の平池西側では弥生時代のピット及び土こうを検出した。南側については土取りされており遺構面は消失していた。（東）

第２図　平池東遺跡東側・中央溝

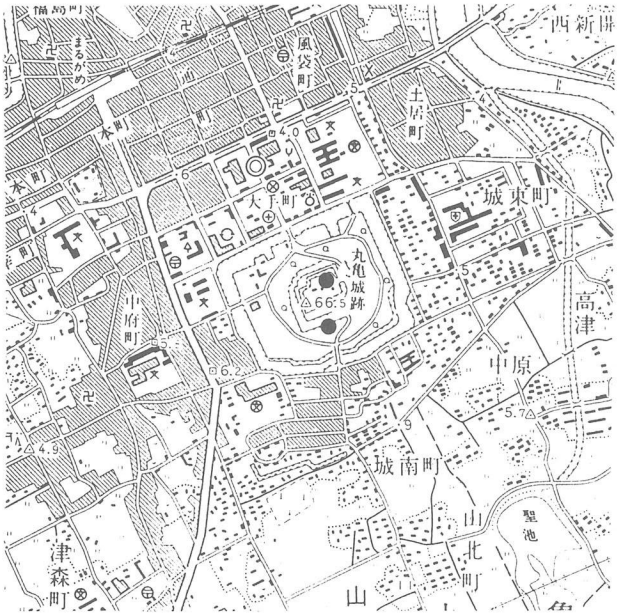

第３図　平池東遺跡西側溝

史 跡 丸 亀 城 跡

1．所 在 地　　丸亀市一番町
2．調査主体　　丸亀市教育委員会
3．調査期間　　平成６年９月６日
　　～平成７年３月20日
4．調査面積　　約200m²
5．調査担当者　丸亀市教育委員会　東　信男
6．調査の原因　史跡丸亀城跡整備事業
7．調査結果の概要

史跡丸亀城内の発掘調査は，石垣修復工事に係る帯曲輪南石垣の上部と下部の遺構確認調査と整備事業に係る本丸跡の暗渠検出及び二の丸跡の石垣検出を実施した。

帯曲輪南石垣の上部からは石組暗渠を検出，下部では根石を確認，遺構の検出はなかった。出土遺物は主に瓦片である。また石垣修復工事中，地表下2.6m，史跡石垣から約4.3m奥で内部石垣を検出した。内部検出石垣構築の基礎地盤の下から瓦と摺鉢が出土した。この包含層の下から地山を削平した整地面も確認している。

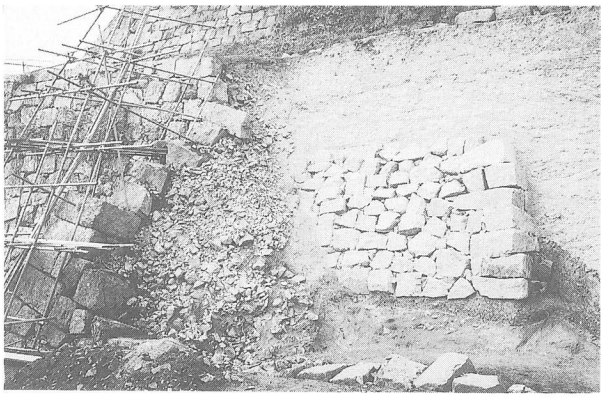


第１図　遺跡の位置

本丸跡は本丸の入口付近の試掘調査をし，凝灰岩製の暗渠，瓦の廃棄土坑を検出した。整備事業に伴い，本丸西多聞跡の石垣と凝灰岩製の暗渠を検出した。二の丸跡については，北多聞跡の石垣と搦手門跡の石垣を検出した。遺物は瓦及び釘が出土した。

8．まとめ

帯曲輪南石垣の上部から検出した安山岩製の暗渠は排水口にあたる部分の史跡石垣を取り外しており，天端から３段目の石の角をノミ切りしている痕跡がある。史跡石垣の完成以後に構築したものであるが，江戸時代のものかは不明である。また，史跡石垣の内部から検出した石垣は，平成４年度の本丸北石垣修復中に検出された内部石垣よりと比べて，切り石の使用，算木積みされていることなどから時代が下るものと思われ，元和～寛永年間のものと推定している。内部石垣より，下層で地山を造成した遺構面があり，築城当初の遺構面であると思われる。今回の帯曲輪南石垣の調査では，丸亀城の築城の過程を見ることのできる貴重な事例である。本丸・二の丸は，京極氏時代の遺構面の検出をし調査を終了した。（東）


第２図　帯曲輪南石垣内部検出石垣

第３図　内部石垣下層出土軒丸瓦出土状況

樫林南遺跡

1．所 在 地　　仲多度郡満濃町大字長尾樫林2626

2．調査主体　　満濃町教育委員会

3．調査期間　　平成6年6月1～2日

4．調査面積　　143m²

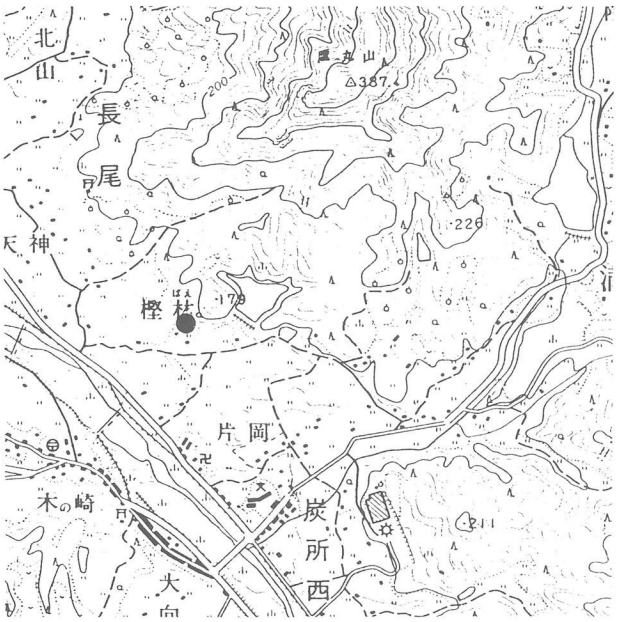
5．調査担当者　満濃町教育委員会　平田友彦

　　調査指導者　文化行政課　森下英治

6．調査の原因　団体営土地改良総合整備事業

7．調査結果の概要

調査地は鷹丸山から南方向に派生する八ツ手状丘陵の末端の標高約60mの平坦面に立地する。上記事業実施中に遺跡の発見があった旨の通知があり，これに基づき発掘調査を実施したものである。

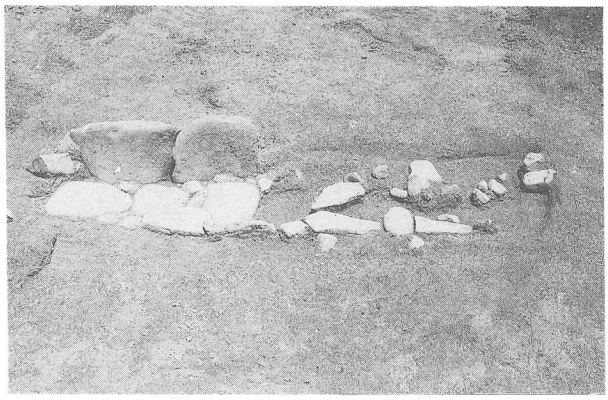


第1図　遺跡の位置

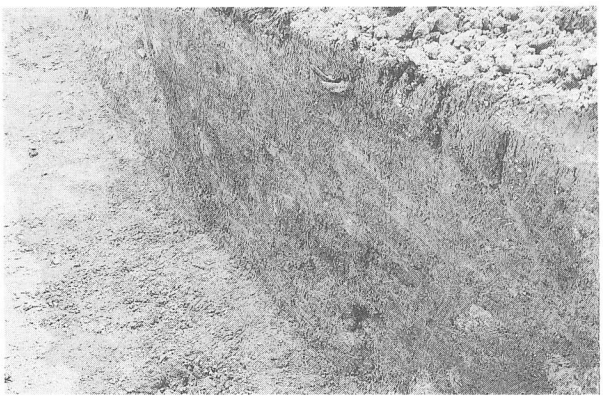
検出した遺構は箱式石棺1基，土坑1基，柱穴少量で，弥生土器片・須恵器片が出土した。箱式石棺は，長さ210cm，幅65cmの地山を掘り込んだ墓坑に，砂岩の扁平河原石を床敷きし，側縁に同様の石材を立てて棺を構成する。一部が破壊されていたが，棺内法は長さ約170cm，幅約32cmで成人用と推定される。近隣に同様な遺構を探索したが，削平が及んでおり検出されなかった。削平土中には須恵器片が混入しており，この石棺に伴う可能性が高い。また，土坑・柱穴は埋土の状況から中世以降の所産と推定されるが，弥生土器片が斜面堆積土中より出土しており注目される。

8．まとめ

調査地周辺の丘陵では天神七ツ塚古墳をはじめ，多数の墳墓遺構の所在が知られている。今回出土した石棺は古墳であるか否か不明であるが，土器川中流域に展開する広域な墳墓群の一画と位置づけられる。なお調査地周辺では，かつて柱状片刃石斧，打製石剣（尖頭器）が採集されている（大林英雄氏蔵）。（平田・森下）



第2図　箱式石棺（南より）



第3図　周辺トレンチ断面

清　源　寺　古　墳

1．所 在 地　　仲多度郡満濃町大字長尾樫林
　　2578－1ほか

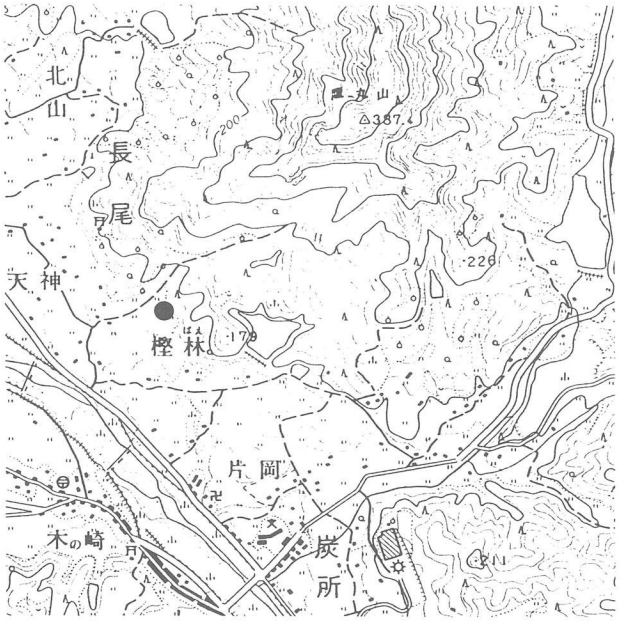
2．調査主体　　満濃町教育委員会

3．調査期間　　平成6年8月8日～8月11日

4．調査面積　　340m²

5．調査担当者　満濃町教育委員会　平田友彦
　　調査指導者　文化行政課　森下英治

6．調査の原因　団体営土地改良総合整備事業
　　天神地区区画整理工事



第1図　遺跡の位置

7．調査結果の概要

周知の埋蔵文化財包蔵地，清源寺古墳の外表施設（周壕等）の確認と，その周辺に未発見の遺跡が広がっていないかどうか，8本のトレンチを設置した。遺構面の削平が著しいが，古墳の周壕，ピット13個，土坑2基を検出した。清源寺古墳の規模については，直径15m，高さ（基底部実測値）3m，主体部が横穴式石室と思われる円墳である。付帯施設の周壕幅は2.2m～4.0mであることを確認した。ピットと土坑については，中世～近世頃と思われるが，いずれも遺存状態は良好でない。

8．まとめ

調査結果からみて，清源寺古墳については，過去の開墾によって一部削平等を被っているものの丘陵をカットした周壕が良好な状態で残存することが判明した。（平田・森下）

第2図　遺構検出写真

第3図　発掘調査風景

天神七ツ塚７号墳ほか

１．所 在 地　　仲多度郡満濃町大字長尾天神

２．調査主体　　満濃町教育委員会

３．調査期間　　平成６年12月５～14日

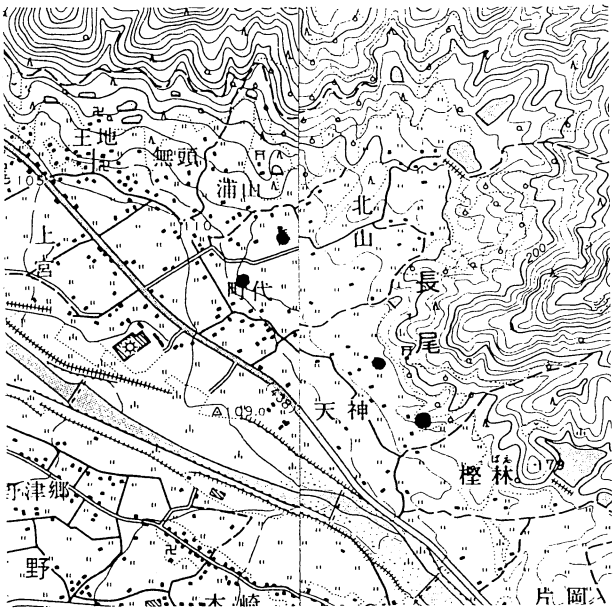
４．調査面積　　53.5m²

５．調査担当者　満濃町教育委員会　平田友彦

多度津町教育委員会

岡　敦憲

６．調査の原因　天神地区土地改良総合整備事業



第１図　遺跡の位置

７．調査の概要

（町代１号墳）

周壕の確認はできなかったが，10～12m前後の円墳と考える。墳丘削平あり。主体部の形態不明。

（町代２号墳）

周壕の確認により，15～16m前後の円墳と考える。墳丘の原型は留めないが，一部主体部らしきものが露出している。周壕内より，円筒埴輪片を検出した。５世紀後半から６世紀初頭と考える。

（北山楠神社塚古墳）

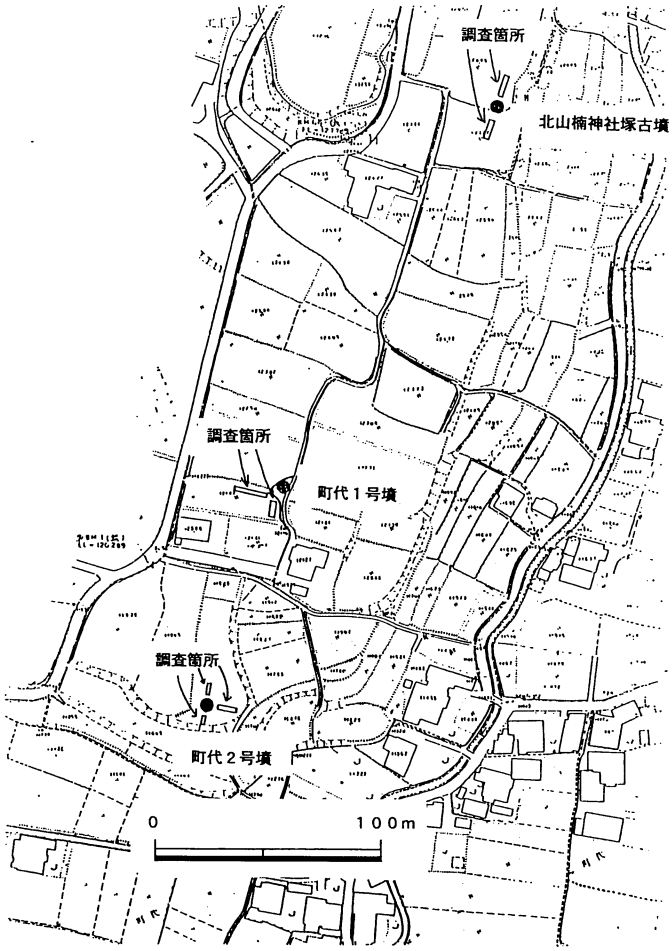
古墳の規模については，直径12m，高さ４m，主体部が横穴式石室で奥壁に大きな花崗岩を用いる円墳である。玄門は両袖形である。

（七ツ塚７号墳）

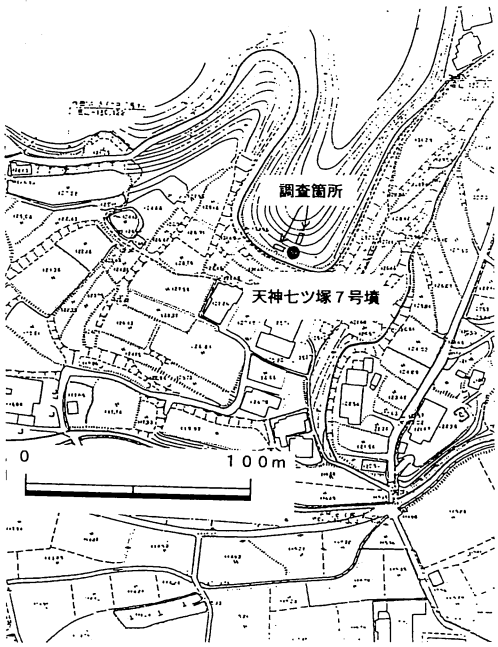
七ツ塚古墳は，鷹丸山の南の丘陵の稜線上に，一直線に構築された七つの古墳である。その（山頂より１号墳とする。）最下方にある７号墳の規模については，直径14m前後の円墳と考える。主体部は，墳頂部にて主体部使用石材らしきものを検出。多分箱式石棺であろう。

８．まとめ

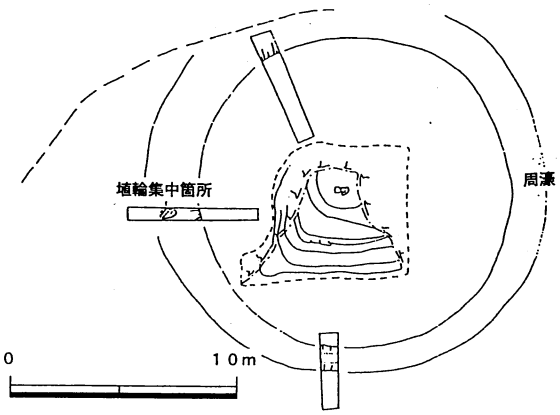
今回の調査目的であった，「整備事業内における遺構の有無の確認及び範囲の確認」について，すべての調査地点から遺物が出土したことから，整備事業実施にあたっては，今後の保護措置が必要と判断された。（平田・岡）



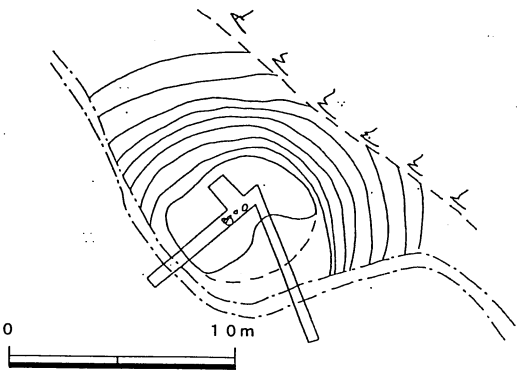
第２図　調査地詳細図(1)



第３図　調査地詳細図(2)



第４図　町代２号墳墳丘略測図



第５図　天神七ツ塚７号墳墳丘略測図

大　堀　城　跡

1．所 在 地　　仲多度郡満濃町大字古野字八幡

2．調査主体　　満濃町教育委員会

3．調査期間　　平成6年5月23～31日

4．調査面積　　20,000㎡

5．調査担当者　満濃町教育委員会

平田友彦ほか

調査指導者　文化行政課　森下英治

6．調査の原因　民間土地造成工事

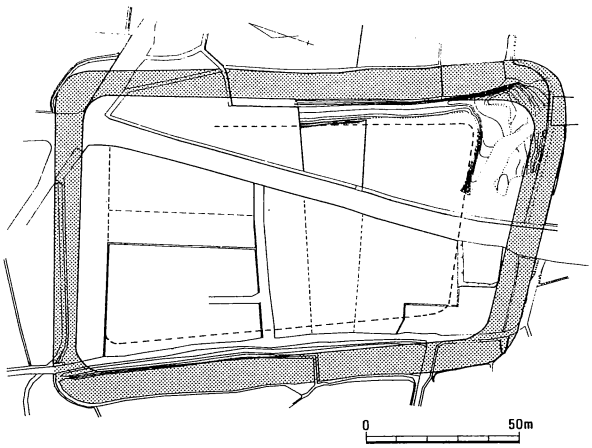
7．調査結果の概要

第1図　遺跡の位置

当遺跡は土器川中流域の扇状地に立地する中世城館跡である。今回調査の契機となったのは，土塁の内側の民間の土地造成（盛土工事）である。事前の試掘調査で対象地内の遺構等がすでに残存しないことが判明したことをうけて，測量調査を実施し，地下に埋没する箇所の記録と今後の開発計画に対応すべく，基礎資料として城館全域の現況測量図を作成したものである。測量の結果，南北170m，東西110mのややいびつな長方形状の城域が明かとなった。土塁は南東部の残りが最も良好で，他の箇所は土塁の外側に存在する堀の痕跡で形状を復元することができる。

8．まとめ

当城館跡は中世在地領主層の居館と推定されるが，「南海通記」等の南北朝期争乱を記録した文献には登場してこない。今後引き続き埋蔵文化財として保護を図り，遺跡の性格や時期等を明確にする必要がある。（森下）



第2図　大堀城跡測量図

木　下　遺　跡

1．所 在 地　　仲多度郡琴南町造田

2．調査主体　　琴南町教育委員会

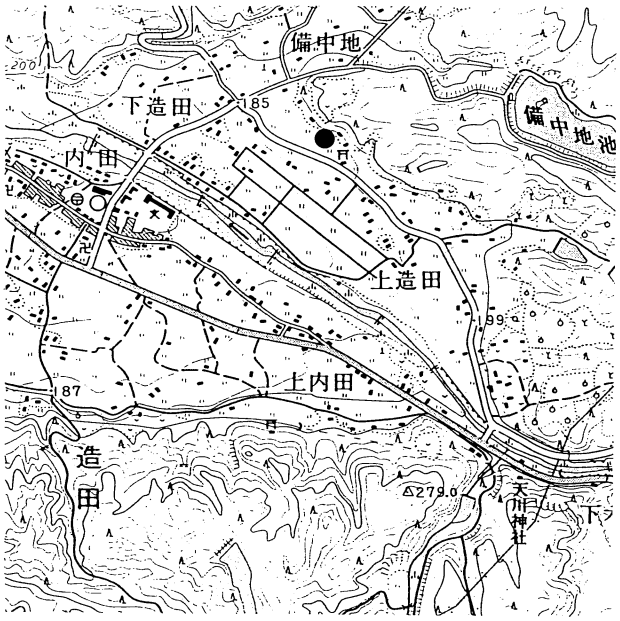
3．調査期間　　平成６年11月１～４日

4．調査面積　　350m²

5．調査担当者　琴南町教育委員会　松坂真人

　　調査指導者　文化行政課　森下英治

6．調査の原因　団体営土地改良事業に伴う事前調査



第１図　遺跡の位置

7．調査結果の概要

調査地は昭和61年度に県道府中琴南線建設に伴って調査が行われた備中地遺跡に近接する箇所である。備中地遺跡とは標高200mほどの丘陵をへだて，丘陵南裾に拡がる扇状地緩斜面がその対象である。対象地内には塚が一基所在し，五輪塔部材が積み石マウンド上に配置されている。試掘調査の結果，丘陵裾を中心として中世～近世の建物跡が拡がることが判明し，工事設計上掘削が及ぶ範囲が事前調査の対象となった。併せて，埋没する塚の調査も実施した。

調査の結果，15世紀ごろの陶磁器を出土する建物跡や溝跡が検出された。建物配置の特徴などは把握できないが，周辺に当該期の集落跡が大規模に拡がっていることが推定された。塚は南北に長い長方形状を呈し，周辺の地山に含まれる砂岩亜角礫を高さ１mほど積み上げ，上面に五輪塔を配している。測量の結果，中心付近に地輪が位置することから原位置をとどめているものと推定された。五輪塔の形式から集落跡の時期と同じである可能性が高い。

8．まとめ

当該地は近世初期の戦乱期に，長曽我部元親の一軍が土器川沿いに侵攻した経路に該当する。当時の文献によれば当遺跡の北に位置する城山城を守る在地領主造田氏が元親軍と交戦した経緯が窺われる。備中地遺跡の周辺には現在内屋敷，中屋敷，門屋などの地名が残っており，周辺に造田氏の居館跡の存在が推定されている。今回検出した集落跡は，時期的に見ても，これらに関連する可能性が高く，今後，さらに広範囲な調査研究を行う必要があろう。（森下）

讃　岐　国　府　跡

1．所 在 地　　坂出市府中町5129・5136
　　5120・5127
2．調査主体　　坂出市教育委員会
3．調査期間　　平成６年４月26日
　　～平成７年２月15日
4．調査面積　　37㎡
5．調査担当者　坂出市教育委員会　今井和彦
6．調査の原因　個人住宅建設
7．調査の概要

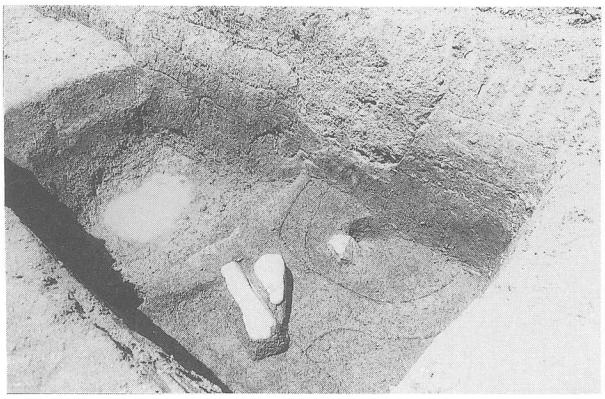
第１図　遺跡の位置

６年度において讃岐国府域内で合計４件の個人住宅建設が実施され，これに伴う発掘調査を実施した。調査対象区は４ケ所であったが，このうち5136番地における，調査では，重要と考えられる遺構が検出された。この5136番地はかつて倉庫跡と呼ばれる遺構が検出された西南に位置しており，西方の水田よりは一段低くなっている。

調査区は現況の宅地間にて幅１ｍ，長さ６ｍのトレンチを設定して遺構検出を実施した。調査区内での地山は西端部で地表下約40～50cm，東端では80～90cmで検出されており，東に向かって徐々に落ち始める状況が認められた。遺構は南壁に沿うように径10cmの柱穴が３～４穴検出されたほか，東端部にて隅丸方形の掘方をもつ大型の柱穴が２基検出された。

8．まとめ

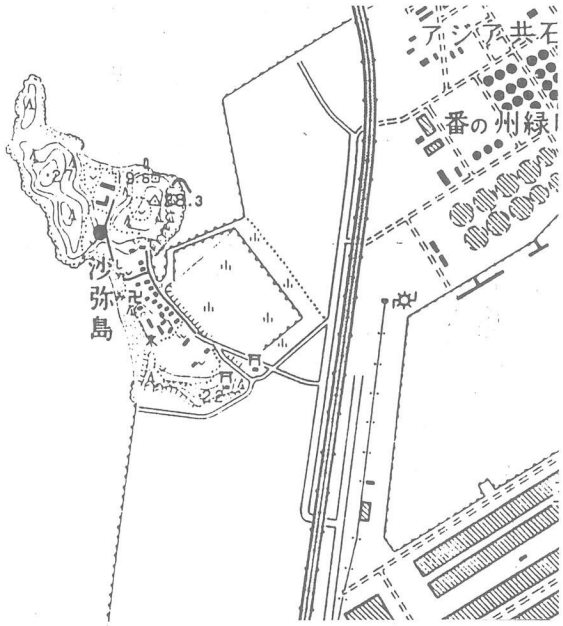
大型の柱穴や小ピットに切られる溝状遺構からは，７世紀後半から８世紀頃の出土遺物が得られており，先に検出された倉庫跡の時期などとも関連する遺構となる可能性が高い。また下層の埋土内からは縄文土器片も出土しており，付近に縄文遺跡が拡がっていたと考えられるが国府設置など後世の造成により，その多くが消滅した可能性が考えられる。（今井）


第２図　遺構検出状況

第３図　遺構検出状況

沙弥ナカンダ浜遺跡

1．所 在 地　　坂出市沙弥島北通り181－1
2．調査主体　　坂出市教育委員会
3．調査期間　　平成6年10月18日～11月22日
4．調査面積　　33.43m²
5．調査担当者　坂出市教育委員会　今井和彦
6．調査の原因　個人住宅建設
7．調査の概要



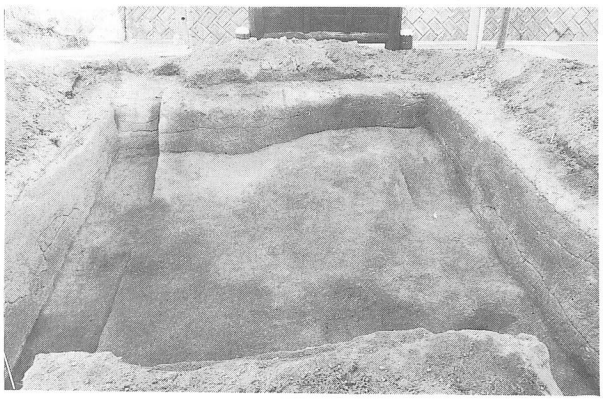
第1図　遺跡の位置

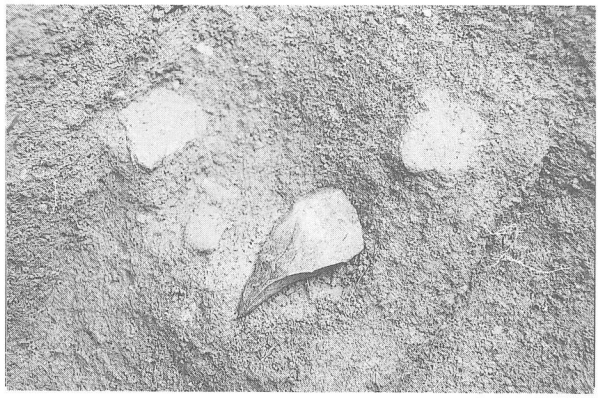
県指定史跡である沙弥ナカンダ浜遺跡は，海浜部を中心とした古代製塩遺跡であるが，その生産に従事したであろう人々の生活空間も考慮して周辺の丘陵部も一部含むかたちで指定されている。しかし住居跡などの遺構は未だ発見されていない。

今回，個人住宅が建設される場所は指定範囲からやや離れているものの，二つの丘陵の接する鞍部に位置しており，下方の海浜遺跡を一望できる場所であり，住居跡の可能性が考えられる場所であった。調査は造成により掘削が及ぶ地点を中心として遺物遺構の検出にあたった。調査の結果，現地表下約60cmで暗褐色の遺物包含層を検出した。この層は場所により20～50cmの厚みで堆積しており，西南に向かうに従って薄くなる。この層の上面からは須恵器小片などが検出され，この層の下層である乳茶色層からはサヌカイト小片のほか縄文土器片も検出された。

8．まとめ

全体に遺物包含層が厚いわりに遺物は僅かであり，遺構は検出されなかった。検出された層の色調や堆積状況については，下方の沙弥ナカンダ浜遺跡と同様のものであるが，製塩土器は検出されていない。地山が海浜に向かって落ちはじめ，東は間近に丘陵が迫ることや，今回の調査区で住居跡が検出されていないことなどから，住居跡はやや西方の緩斜面部に存在してい可能性が高くなったと考える。（今井）


第2図　遺構検出状況


第3図　遺物検出状況

笠　山　遺　跡

1．所 在 地　　坂出市谷町１丁目3996
2．調査主体　　坂出市教育委員会
3．調査期間　　平成６年８月24日～９月６日
4．調査面積　　12.85m²
5．調査担当者　坂出市教育委員会　今井和彦
6．調査の原因　電力鉄塔建設
7．調査の概要

５年度より計画のあった笠山遺跡周辺における電力鉄塔建設は，笠山古墳を回避する方向で計画されたが，建設予定地が石器散布地である笠山遺跡の広い範囲内に位置することから，事前の確認調査を実施することとした。

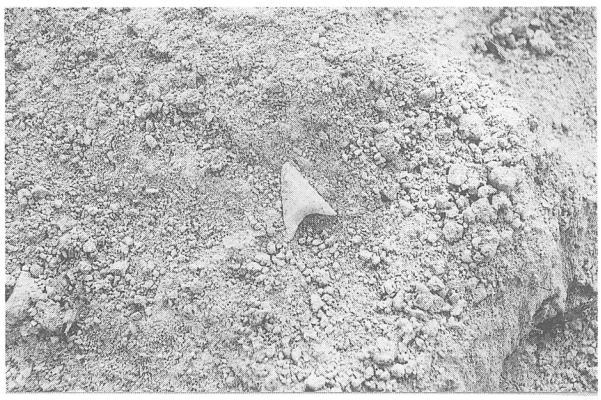
第１図　遺跡の位置

調査区は笠山南の舌状に延びる尾根（標高40～46m）の東斜面に位置し，古墳が立地する緩斜面部と下方に向かう急斜面の傾斜変換点付近に設定した。古墳に近い緩斜面部においては遺物は検出されなかったが標高43m付近の傾斜変換点ではサヌカイト製石器が検出された。また更に下方の急斜面部では遺物は減少する傾向にあった。このため，標高43m付近を中心にトレンチを拡張して調査を実施した。

8．まとめ

当該調査区では従来採取されていた，ナイフ形石器は１点も出土せず，サヌカイト製の尖頭器が４点，石鏃１点，須恵器杯蓋片１点のほか，大小のサヌカイト剥片が約100点ほど検出された。須恵器片が出土していることについては，尾根上の笠山古墳に関係するものと考えらられるが，これ以外に笠山古墳に関連する遺物遺構は検出されていない。今回の調査区の遺物出土状況は比較的浅い地点での出土であり，須恵器等も混在することから，尾根上の古墳築造に伴い斜面へ流出したものであろうと考えられる。（今井）

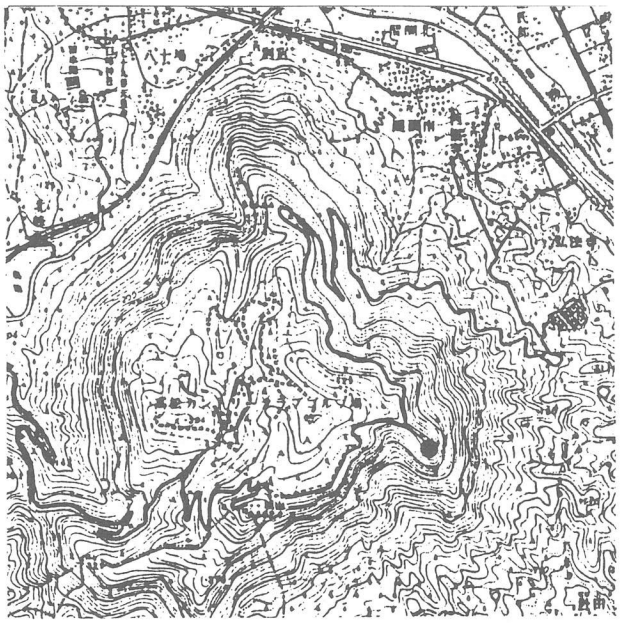
第２図　遺物検出状況


第３図　遺物検出状況

明　神　原　遺　跡

1．所 在 地　　坂出市府中町6193
2．調査主体　　坂出市教育委員会
3．調査期間　　平成７年３月６～24日
4．調査面積　　1800㎡
5．調査担当者　坂出市教育委員会　今井和彦
6．調査の原因　遺跡確認調査
7．調査の概要

国指定史跡である城山は日本書記に記された天智天皇六年に屋嶋城が置かれた頃と同じ頃に築造されたのではないかと考えられている古代山城であり，昭和26年に国の史跡に指定されている。山頂一帯が高原状となる城山全体に拡がる城山城は地上に露出した遺構部分のみが指定となっており，全体を指定するにいたっていない。このうち明神原遺跡は古代祭祀遺跡としての性格を帯びながら城山城の一部として含まれる地区である。



第１図　遺跡の位置

今回の調査は遺跡全体が草木に覆われていたことから，伐採をした後に指定地である巨石露出部と，車道と呼ばれる外郭の平坦部までの間を測量することで，遺跡資料化のひとつとすることを目的とした。

8．まとめ

調査から新たに確実な遺構は検出されなかったものの，現状での明神原南の外郭の開始点や菅原道真が城山神へ祈雨した伝承が残る巨石群と外郭線の位置関係など，一部であるが図化できた。また，巨石群と外郭との間に更に列石が残ることや，微妙な平坦地も幾つか存在していることなど，今後の調査対象となる地点も幾つか確認された。

これらが城山城の遺構の一部であるとの確証は得られないが，今後の調査上でも見逃せない部分になってくると考えられる。

但し，今回の調査は明神原北西方向の外郭線までは至っておらず，この北西の外郭線が城山城全体の外郭へと延びていくかどうかの確認は出来ていない。（今井）

第２図　遺構検出状況

第３図　遺構検出状況

原　　遺　　跡

1．所 在 地　　綾歌町栗熊東3439,3442－1
2．調査主体　　綾歌町教育委員会
3．調査期間　　平成6年8月22日
　　平成6年11月26日～12月16日
4．調査面積　　135m²
5．調査担当者　綾歌町教育委員会　近藤武司
　　調査指導者　文化行政課　國木健司
6．調査の原因　土地改良総合整備事業
7．調査結果の概要

第1図　遺跡の位置

本遺跡は以前の基盤整備時に弥生から中世の土器片が多量に出土し周知となっている原遺跡の東南部隣接地を今回新たに団体営土地改良総合整備事業により開発が実施されるのを受けて町教育委員会により事前分布確認調査を実施したことにより発見されたものである。試掘調査の結果，遺跡の範囲と推定される部分について工事により掘削を受ける部分について発掘調査を実施した。

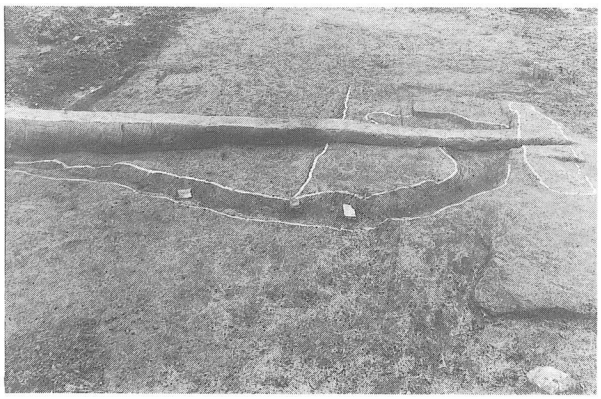
その結果，ピット，溝，土坑を検出したことから古代末から中世にかけての集落であることが判明した。土坑は土堤状に焼けていたことから中世のカマド跡の可能性もある。土器はほとんどが土師器で土坑と包含層から比較的多く出土した。包含層からは石鏃も出土した。

8．まとめ

今回の調査で原遺跡が谷部を中心に展開していたと言われていたのが，東側の丘陵部にまで広がっていることが判明した。中世の集落については，さらに南方に所在したとされる栗隈城との関連も考えられる。

弥生時代の集落も広範囲に広がっていることが判明したことから，弥生時代後期から古墳峙代前期にかけて南部丘陵に数多く築造された墳墓の勢力基盤の一つであったと思われる。(近藤)

第2図　遺構検出状況


第3図　遺構完掘状況

定連池東丘１号墳

１．所 在 地　　綾歌町栗熊西217－１
２．調査主体　　綾歌町教育委員会
３．調査期間　　平成６年８月23～27日
　　平成７年２月23日～３月１日
４．調査面積　　約200㎡
５．調査担当者　綾歌町教育委員会　近藤武司
　　調査指導者　文化行政課　國木健司
６．調査の原因　町道改良工事
７．調査結果の概要

第１図　遺跡の位置

本遺跡は既に周知の遺跡として４基の古墳により形成されていることが知られているが，内容については調査が実施されていなかったことから確認されていなかった。

今回，町道の改良工事を行うことになり町教育委員会では測量及び分布確認調査を実施することになった。

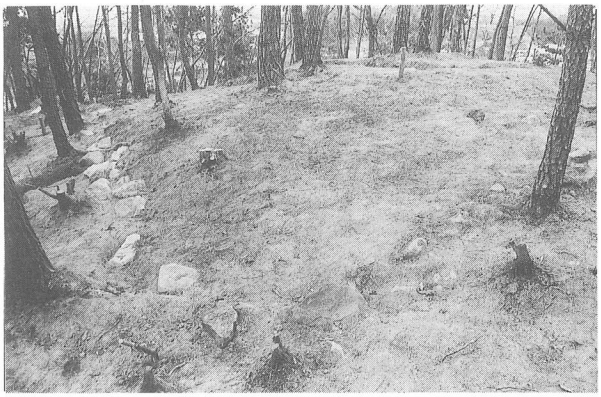
調査の結果，尾根稜線上の先端部に築造された９ｍ，高さ1.5mの方墳であることが判明した。，墳丘の各斜面は四辺に列石が二段構築されている。

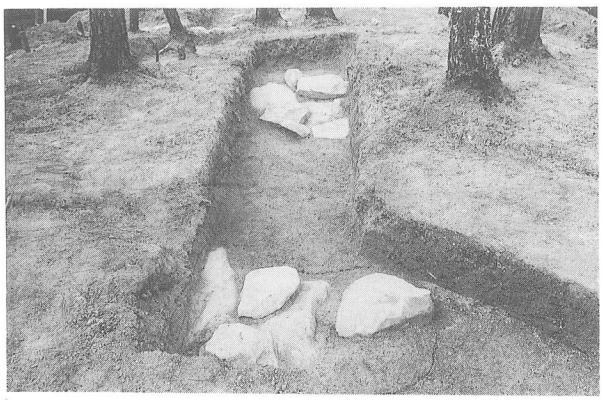
墳頂部に一部試掘を行い小竪穴石室の蓋石まで確認した。

８．まとめ

今回の古墳については，時期を確定する根拠となるものは少ないが，方墳で葺石状の列石を持つことから前期後半から中期初頭にかけて築造されたものと推定される。

本古墳の北部に所在する定連遺跡や南部の定連池東丘２～４号墳の中には前方後円墳と思われるものもあり，古墳発生期から古墳時代前期の間の墳墓の変遷と社会を知るうえで重要な鍵をもつ古墳であることが分かった。（近藤）


第２図　葺石状列石


第３図　主体部検出状況

行　末　西　遺　跡

1．所 在 地　　綾歌町栗熊西1170－1
2．調査主体　　綾歌町教育委員会
3．調査期間　　平成7年2月4日
4．調査面積　　約100m²
5．調査担当者　綾歌町教育委員会　近藤武司
　　調査指導者　文化行政課　國木健司
6．調査の原因　町道改良工事
7．調査結果の概要

事業予定地は既に周知となる弥生前期集落行末遺跡より西に約200メートルと非常に近いことから，遺跡が所在する可能性が高かったため，工事に先駆けて試掘調査と併せて事前調査を行った。

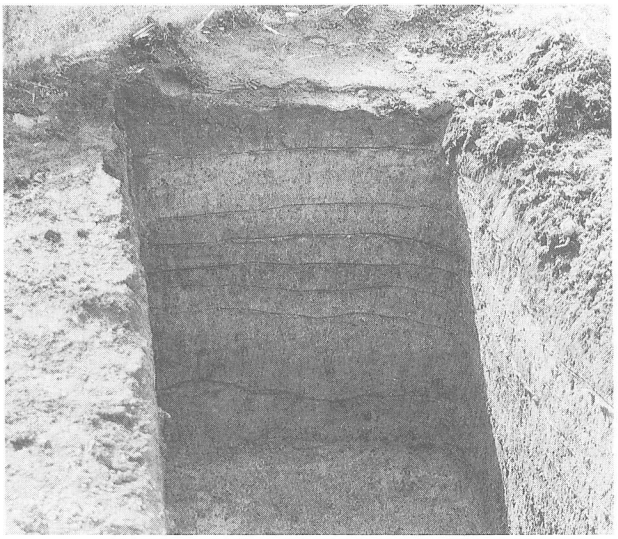
その結果，南東から北西に走る溝遺構（ＳＤ１）を検出した。ＳＤ１は幅60cm，深さ20～30cmを測る溝で弥生時代後期の土器片を比較的多く含む。埋土は上層が灰褐色粘土，下層は暗灰色砂である。調査区西端付近で大束川の旧流路と思われる落ちを検出した。調査区以東は行末遺跡が所在する丘陵から北に向かって微高地が広がっている。

以上のことから，今回発見した本遺跡は集落の西端付近であり，本体は調査区より北東方向に広く展開しているものと考えられる。

次年度以降に本事業と関連した町道拡幅工事が予定されているので事前調査を実施し，さらに遺跡の内容を明らかにしていく予定である。

（近藤）

第１図　遺跡の位置


第２図　大束川旧流路落ち

第３図　ＳＤＩ完掘状況（北東より）

第４図　ＳＤＩ遺物出土状況

西　村　遺　跡

1．所 在 地　　香川県綾歌郡綾南町陶
2．調査主体　　綾南町教育委員会
3．調査期間　　平成７年１月10日～２月１日
4．調査面積　　300m²
5．調査担当者　片桐節子
6．調査の原因　医院建設
7．調査結果の概要

第１図　遺跡の位置

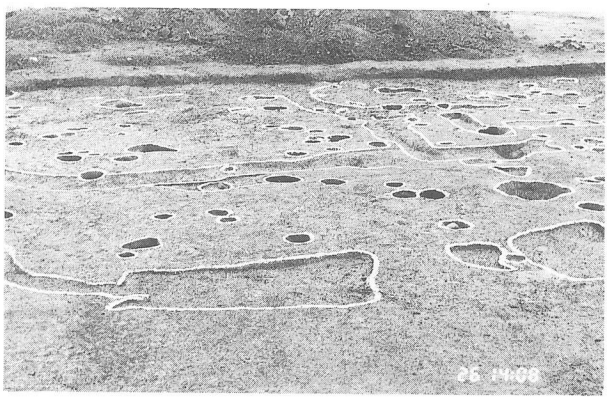
医院建設部分（Ｉ区）と住居建設部分（II区）２ヵ所に調査を実施した。両区とも耕土直下，場所によって包含層が認められ，以下地山へと続く。遺構はこの地山面に掘り込まれている。Ｉ区では西部分で削平が認められたが，東部では土坑・柱穴・溝など遺構が密に認められ，溝に囲まれて柱穴が存在する様子が窺われる。また，土坑より大型甕が出土した規模は0.9×0.9ｍの楕円形を呈しており，底部まで丁寧に掘られている。出土状況から甕の下半には何かが入っていた痕跡窺われる。甕内埋土から土師質の小皿・坏・香炉の脚部等が出土している。

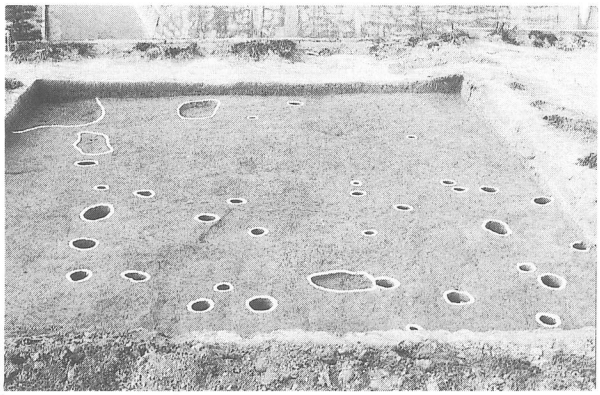
II区では調査区ほぼ全域に包含層が遺存しており，地山面で柱穴・土坑・落ち込みなどを検出した。柱穴内からは土師器・瓦質土器が出土している。

8．まとめ

昭和54年から３ヵ年にわたって調査が実施された西村遺跡川北地区の北約50ｍに位置する。今回の調査では柱穴・溝・土坑などが確認された。遺物は土坑・溝・柱穴内から土師器の坏・椀，溝から土器と共に北宋銭が出土しており，12世紀後半から13世紀の集落遺跡と考えられる。地形的にも時代的にも西村遺跡の一部として捉えられるもので，特にＩ区では溝で囲まれた中に掘立柱建物跡の存在が推定され，山原地区との共通性が窺われる。今回の調査では小規模であるせいか，土器もほぼ単一時期のもので，西村遺跡全体の中ではやや後出の時代であるといえる。

現在整理作業進行中で，追って報告する。（片桐）


第２図　Ｉ区遺構検出状況


第３図　II区遺構検出状況

特別史跡讃岐国分寺跡

1．所 在 地　　綾歌郡国分寺町国分
2．調査主体　　国分寺町教育委員会
3．調査期間　　平成６年10月20～30日
4．調査面積　　100m²
5．調査担当者　国分寺町教育委員会
松尾忠幸

第１図　遺跡の位置

6．調査に至る経過

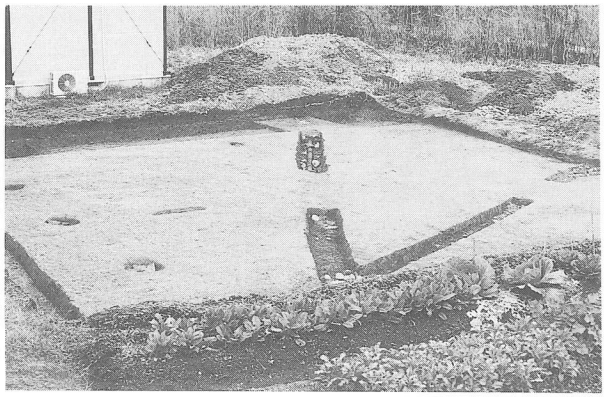
史跡地内にある宝林寺から現本堂北側で講堂を建てたい旨の打診があった。町では史跡地の保存整備事業を実施しており，一般民家については家を立て替える際には土地を買い上げによる保存措置を講じている。しかし，今回の建築は予定地が伽藍中枢部からかなり離れていることなどから発掘調査を実施し，その結果を待って判断することとした。

7．調査の概要

建設予定地に南北10m，東西10mの調査区を設定した。表土下は床土，地山(灰黄褐色粘質土)となる。中央には放射状の暗渠排水（昭和33年頃のもの）が検出された。また西端では幅１mの溝を確認した。出土瓦から近世の所産であることが分かる。昭和56年度に宝林寺の家屋増築に係る発掘調査でも近世の湿地帯を確認しており，一連の遺構と思われる。南側では柱穴３個を検出した。柱間寸法は２mであり，古代の瓦や磚が放り込まれていた。出土土器から平安時代末期頃のものと思われる。地形は北側より１m程低い場所であり，昭和59年度に発掘調査を行った東大門推定地と同様に水田造成に際して遺構面がかなり削平されたのであろう。

8．まとめ

今回の調査では古代の遺物は少なく，特に重要な遺構も見られなかった。全国的に見ても国分寺跡における東大門推定地の内側で重要な遺構が確認された例はなく，遺構が希薄な場所であったと思われる。(松尾)


第２図　遺構検出状況

第３図　柱穴検出状況

弘福寺領讃岐国山田郡田図南地区比定地

1．所 在 地　　高松市林町42番地５～９
2．調査主体　　高松市教育委員会
3．調査期間　　平成７年１月19日～３月31日
4．調査面積　　約320m²（105×3.0m）
5．調査担当者　高松市教育委員会　山本英之
6．調査の原因　重要遺跡確認
7．調査結果の概要

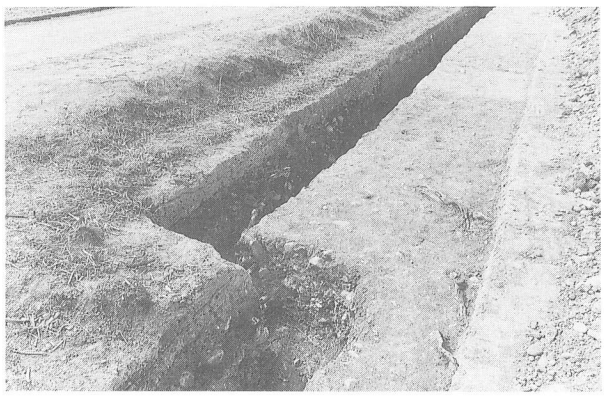
調査地点は田図南地区（山田郡８条10里９坪）から東側田図域外にかけての場所で，現在は，昭和19年の陸軍飛行場接収と終戦後の農地払い下げによって周辺条里地割とは，違った区画になっている。また，当該地周辺の耕地区画・土地利用の変遷をうかがえる資料として文化15（1818）年と明治29（1996）年の地籍図が残り，前者（順道図絵）では調査地付近に「岩田神社」「吉国寺」の存在を記す。これにより，陸軍飛行場接収以前の条里地割と土地利用が復原でき，既往の周辺遺跡調査例も併せて広い範囲の遺構状況が確認可能であるため，ここを調査地点とした。

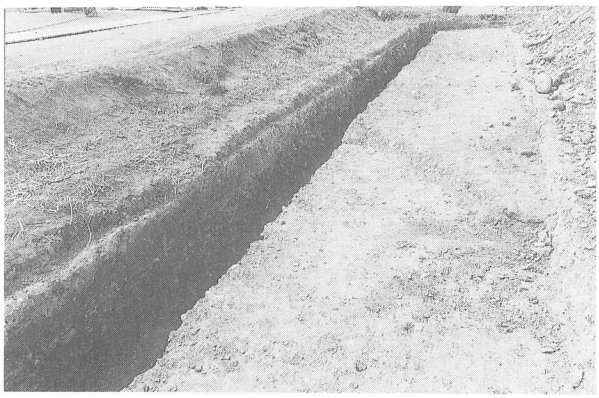
第１図　遺跡の位置

発掘調査の結果，近代以降の溝状遺構３本，松並木根株列，岩田神社参道地界の段差（近世）等の遺構，幅35m，深さ1.5mで東北流する旧河道を確認した。旧河道堆積中第18層には，無遺物の水田畦畔が存在する。遺構中・包含層とも近世末から近現代の遺物が大部分だが，中でも「吉」字軒丸瓦片ほか瓦片多数が出土している。

8．まとめ

以上の結果，遺構は明治27年地籍図の用水路，岩田神社参道松並木等とほぼ対照可能である。順道図絵は，18世紀初頭の耕地絵図で，当時の一町方格地割を基本として１～数筆をまとめて描き，池台池・山田香川郡界線など現在では実見できない目標物が描かれるため，現在の土地割と弘福寺領田図の時間差を埋める資料となりうる。吉国寺や岩田神社参道の確認は，弘福寺領南地区の比定にとっても大きな成果である。（山本）


第２図　岩田神社参道の松並木跡


第３図　岩田神社参道境の段差状遺構

宮西・一角遺跡

1．所 在 地　　高松市林町42番地19
2．調査主体　　高松市教育委員会
3．調査期間　　平成７年１月31日～３月31日
4．調査面積　　約450m²（170×2.5m）
5．調査担当者　高松市教育委員会　山本英之
6．調査の原因　市道拡幅工事
7．調査結果の概要

調査地点は，田図南地区（山田郡８条10里５・６坪）を横断する東西600mの市道の一部で，現在は，昭和19年の陸軍飛行場接収とその後の農地払下げによって条里地割とは異なる区画をなす。

第１図　遺跡の位置

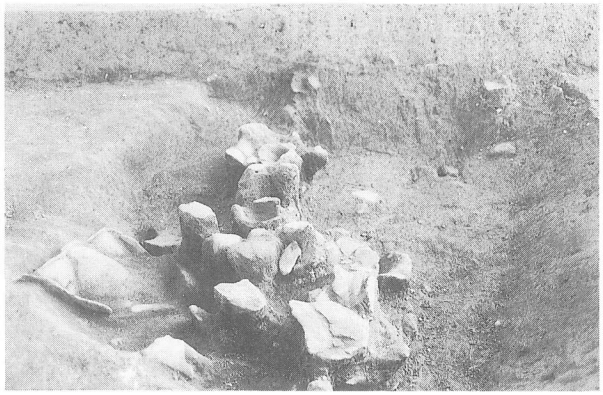
発掘調査の結果，遺構では池台池堤体の痕跡，溝状遺構５（現代），条里坪界線３，土壙墓１（１世紀頃），土坑４（弥生前期～中期）等が検出できた。

遺物は，土堝脚片，土師小皿他土器片（14世紀），弥生土器壺，甕片（前期後半～中期）等が出土している。土師小皿は条里界線の交差点の縁に６枚が３重，２重，単体の一列になって確認されており，用水路または用水に関する何らかの祭祀があったものと想像できる。また，弥生土器は，前期後半の時期の大形甕・壺などが計４基の土坑から一括性の高い形で出土しているが，それ以外の住居跡，墓壙などの遺構は確認できていない。

8．まとめ

現代の溝状遺構は，５本中３本が飛行場接収前の地割と一致し，推定条里プランとの位置関係もほぼ一致している。池台池の堤体痕跡も㈶香川県埋蔵文化財調査センターが平成３年度に実施した空港跡地遺跡でも同様の遺構の状況が確認でき，さらに明治29年地籍図とも一致した。

また，14世紀の条里坪界線は推定条里プランと方向は一致しているが，位置関係が東と南に数mずれており，14世紀以降の条里プランの再編成を示唆する資料となる可能性がある。（山本）


第２図　ＳＫ02遺物出土状況

第３図条里溝交差点の土師皿出土状況

日暮・松林遺跡

1．所 在 地　　高松市多肥上町地内
2．調査主体　　高松市教育委員会
3．調査期間　　平成６年７月28日～９月19日
　　10年31日～平成７年１月12日
4．調査面積　　3500㎡
5．調査担当者　高松市教育委員会　山本英之
6．調査の原因　都市計画道福岡多肥上線
7．調査結果の概要

第１図　遺跡の位置

調査は平成５年度より継続しており，本年度に検出された遺構は，竪穴住居跡１棟，掘立柱建物跡18棟，溝36条，自然河川２本，土坑等である。

竪穴住居跡は調査区ほぼ中央に単独で存在していた。出土土器より弥生時代後期に比定される。掘立柱建物跡は調査区中央部に集中しており，長軸を東西方向に向けほぼ同一方位を示している。竪穴の規模は非常に大きく，深さ70cm位のものもあり，そのいくつかには多量の土器が検出された。時期は弥生時代中～後期と考えられる。

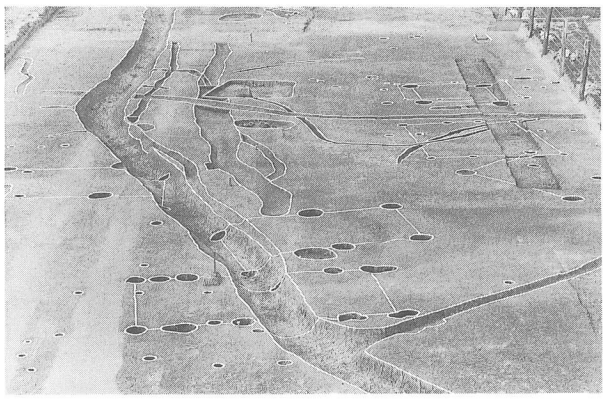
溝は３時期に分けられる。弥生時代中～後期の溝は，南北方向に不規則に走り，調査区中央を蛇行しながら南北方向に伸びる13世紀初の溝からはほぼ完形の杯が数点出土した。110m前後の間隔をもって東西方向に走る３本の溝は中世後半と見られ，条里制の坪境と考えられる。

調査区北側を流れる自然河川は河床より弥生時代中～後期の土器，加工木を出土した。南端の自然河川は12～13世紀に埋没した浅い河川であり，コの字形を呈する木樋が確認された。

8．まとめ

平成５年度の調査結果と合わせて考えると，調査区北側は弥生時代中～後期の居住域，中央部は掘立柱建物群があり，同一集落内において異なる性格の領域を有していることは注目される。調査区は南北に細長く設定されたが，遺跡の範囲は東西方向にも広がっていると考えられる。

（山本）


第２図　遺構完掘状況(1)

第３図　遺構完掘状況(2)

空港跡地遺跡（亀の町地区Ⅰ・Ⅱ）

1．所 在 地　　高松市林町2222番地２(Ⅰ)
　　高松市林町351番地４(Ⅱ)
2．調査主体　　高松市教育委員会
3．調査期間　　平成６年５月14日
　　～６月22日(Ⅰ)
　　平成６年８月９日
　　～９月22日(Ⅱ)
4．調査面積　　200m²(Ⅰ)
　　800m²(Ⅱ)
5．調査担当者　高松市教育委員会　山本英之
6．調査の原因　高松市林町ＲＴ（加入者線多重伝送装置）設置工事(Ⅰ)
　　高松南部農業協同組合林支所建設(Ⅱ)

第１図　遺跡の位置

7．調査結果の概要

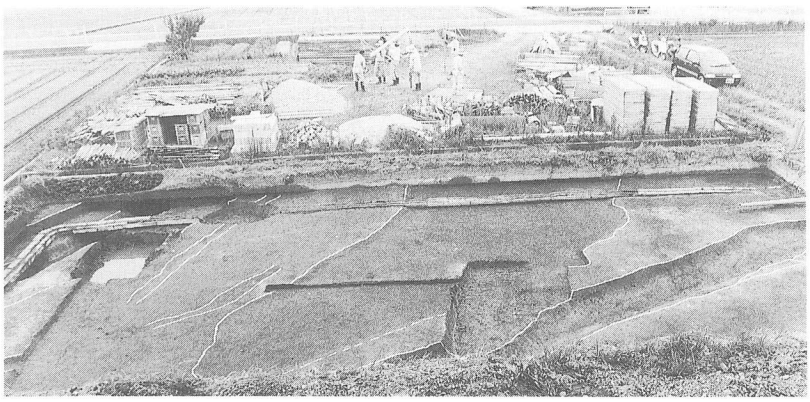
亀の町Ⅰ地区は攪乱が著しく，地表より約50cmまで現代の客土である。検出した遺構は，溝７条と性格不明の落ち込み１，旧高松空港（林飛行場）に伴う電線埋没溝，鉄製水道管・土管である。ＳＤ01～03，07は調査区西側を南北方向に，ＳＤ04～06は東西方向に延びる。溝からは弥生時代後期の土器が出土した。

亀の町Ⅱ地区において検出した遺構は，掘立柱建物跡１棟，溝６条，土坑９基，ピットである。掘立柱建物跡は２×３間であり，埋土より18世紀以降のものと考えられる。南北方向に蛇行して走る溝は弥生時代後期であり，数回の掘り直しが見られる。中央部を直線的に東西に延びる溝からは12世紀の土器が出土し，その南側を併走する溝は，幅1.7m，深さ60cmを測り，18世紀後半の土器を出土した。これらの溝は条里制の里界線であると考えられる。

8．まとめ

亀の町１地区は調査面積も狭く，溝のみの検出であるので遺跡の性格は不明瞭である。一方，亀の町Ⅱ地区において最も注目すべき点は，高松平野に残存する条里地割から復原すると，東西方向に直線的に延びる３本の溝が里境の線上に当たっているということである。時間的に600年位隔たっているが中世からほぼ同様な地割であり，さらに現在まで継続されていたのである。

（山本）


第２図　亀の町地区Ⅰ遺構全景